

掲示板

2008年度 第2号(4月) 通巻第50号



今年度よりFR 担当となりました学芸員の中藤容子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ごあいさつとして、自己紹介とFRへの思いを述べてみたいと思います。

私は、博物館開館の年に琵琶湖博物館の民俗学担当学芸員になり、民俗資料の整備や展示・交流事業、研究に携わって12年になります。その間に、滋賀県民となり結婚し、現在、3人の子を育てながら働いています。

"伝統的な日本の暮らしを探究して得られた成果がこれからの社会に大いに役立てられるのではないか"という見通しをもって、主に琵琶湖水系の漁撈・淡水魚食文化をテーマに調査研究し、展示などで紹介してきました。

本館に収蔵する1万点ほどの民具資料の整理も進め、資料データベースも順次、本館インターネットページ上に公開しています。

今年度からは「資料活用学」という専門分野を担当します。ここ数年、博物館の民具資料を活かしていかに社会貢献できるか試行錯誤し、はしかけグループ「近江はたおり探検隊」や「展示室を楽しくする会」の活動を進め、さらに今年から「ミュージアムセラピー研究会」を立ち上げました。博物館の生活実験工房とその周辺の田畑・森林を使って、同志とともに四季折々の昔の暮らしを体験する場をつくっていかれたらと夢を描いています。

FRは博物館の準備室時代から続く歴史があります。その活動を支えてこられたFRの方、スタッフの方のお力の賜物だと敬服しています。その活動成果の蓄積をもっともっと活かすことができるのではないかと常々思っていたところ、担当となり喜んでいきます。

まずは、スタッフの方々にFRのことを教えていただきながら、昨年度担当の前畑さん、楊さんと一緒に、FRの活動を盛りたてていきたいと思っています。みなさん、どうぞよろしくお願いいたします！
(FR担当:中藤容子学芸員)

***** もくじ *****

表 題	担 当	頁	表 題	担 当	頁
* 自己紹介	中藤容子	1	* 雑給水として天水を生かしませんか	加固啓英	7
* 仔犬と毒草	加固啓英	2	* 希望する調査項目	加固啓英	7
* もっと密にならないか、 F・レポーターの交流	加固啓英	3	* 「虫たちに聞いてみよう」 アンケ ートについて	FRS(森)	8
* もったいない	加固啓英	4	* ボタンウキクサ その	津田國史	11
* 昨年のツバメの調査の後で	加固啓英	4	* 我輩は浮き草である	H・M	12
* 身近な脊椎動物	加固啓英	5	* フィールドレポーター調査内容について		13
* 何とかならぬか生物用語	加固啓英	6	* 琵琶湖博物館からのお知らせ		14
			* 編集後記	FRS(山中)	15

表 題[仔犬と毒草]

投 稿 日[20080121]

名 前 [彦根市 加国啓英]

2007年10月24日(仏滅)波乱の一日を土産に仔犬が我が家にやってきた。

この30数年の間に2頭の犬を飼いましたが、初代の黒い芝犬♀、呼称「クク」血統書名は「秋吠姫(シュウハイヒ)」は享年11歳10ヶ月で、二代目、多分甲斐犬とラブラドルの雑種と思われる黒地に不鮮明な茶色の、多分学芸員さんの目には横に、私には縦に見える縞(虎や縞馬と同じ方向)のある「トラ」♀は享年13年余ヶ月(守山の「動物保護管理センター」から頂き、誕生日不明。)で他界。

二代目が逝った後の寂しさのなかで、家内が「もう犬は飼うまい」。私たち夫婦の予想余命と犬の寿命がほぼ等しい筈で、あきらめムード。

ややあって、今度は「トラちゃんを思い出すから、黒い犬は飼うまい」。前向きの姿勢で後ずさり。

次の日、家内と娘が網やアングルを買い込み、庭にミニドッグランを作っているではないか。どうやら我々夫婦共々、犬の老後も看取る交渉が成立したらしい。

「トラ」が非常に性格が良く、飼い易かったのも、又「動物保護管理センター」へ。娘と家内の選んだのは結局又、黒い仔犬。足先の大きいのが少し気になったが(大きく育ちそう)口を挟まなかった。

家内が運転、サイドシートに仔犬を抱いた娘が、後部に私が乗り、帰途につく。

その間もこの「のらくろ」の口吻を華奢にしたような仔犬♀はひどくおとなしく、声も立てない。

以前の2頭同様に娘が名前を即決、黒いから「ヒジキ」に決定。

帰途、琵琶湖湖周道路のラフォーレの北で横断待ちのところを追突され、前世紀末に購入の初代プリウスが、ムンクの「叫び」とピカソの描くところの美人モデルの中間のように大破、変形。

その間ヒジキは泰然自若。安全設計の想定通り適度に潰れ、玉突き事故にも、道路外への転落も、対向車線での多重事故もなく人犬ともに無事。トヨタ自動車さん有難う。

家に付いても、この犬が滅多に「ワン!」とか「キャン!」とか鳴かない。週に何回か犬らしい声で鳴くと家中から歓声が沸く。淋しがりやで、やたらに人懐っこく、淋しくなると「ハオ～、フオ～」? お前はアフリカゾウか、機嫌がよいと「クゥ～クゥ～クゥ～クゥ～」? アシカか、何かを見つけると「ギュー、ギュー、ギョルル」? ツグミか、早々に飼い主に似て、萬(よろず)ガラクタ・コレクション。

体より大きな端材や木の根っこを咥えて走り回り、飼い主に似たか出入りを許したサンルーム内にガラクタの山。

今年に入り、ミニドッグランの土から次々に有毒なスイセンが芽を出し、掘り除く作業が続いています。

見直すと住宅地内にもかなりの種類の有毒植物が有るのに気付きました。

スイセン、スズラン(洋種・日本種)、キョウチクトウ、アセビ、ノウゼンカズラ、ハゼ、等、食べて命に関わるもの以外にも、触れた手で汗を拭っただけで、目や皮膚をやられる物も多いようで、ご注意ください。

表 題 [もっと密にならないか、F・レポーターの交流]

投 稿 日 [080114]

名 前 [彦根市・加田啓英]

私は、1971年に霞ヶ浦・利根川水系の土浦市や関東平野より、ここ琵琶湖・淀川水系に転入して来たものです。

最初の1年間は近江鉄道の八日市駅の近く、その後はずっと彦根市のJR稲枝駅に住んでおり、宇曽川・愛知川・琵琶湖岸、の成す彦根市南西部の三角の地域を、今世紀に入ってから、ほぼ毎日約1時間を目処に犬の散歩兼自然観察に徘徊しておりますが、ここ滋賀県は関東平野とは色々と違いがあり、興味の種が尽きません。

お近くの方が居られましたら以後交流を・・・

月に1～2回、大抵は土曜日に、F・レポーター・スタッフの集まりがあり、次の調査テーマをきめたり、掲示板の印刷～発送準備等に参加していますが、どれを採っても与えられた「仕事」として見ればこれほど退屈なものは無い筈なのに、仲間内でお茶菓子を食べながらの「トムソーヤのペンキ塗り」的に楽しい作業なのです。

スタッフとは云っても特に制限は無く、掲示板末尾の「フィールド・レポーター××月予定」に記載の日時でお手すきの日に来て頂けたら大歓迎です。

特に若い方の意見の反映が欲しいと思います。

入り口は正面玄関に向かって右側の博物館の端の通用口(?)で、記帳の面会者(目的欄)は「F・レポーター」で良いかと思います。

琵琶湖博物館は、日本国で云えば、スーパーカミオカンデやスバル望遠鏡に当たる、他府県に誇れる施設だと思います。(欲を言えば、哺乳類担当の学芸員さんにも居て欲しい)

俳諧老人松雄芭蕉ならぬ徘徊老人予備軍の私(1939年生まれ)は世間の老人の定番のサロン、病院のロビーやゲートボール場は性に会わず、ここの質問コーナーのリピーターとなっています。

F・レポーターの仕組みも素晴らしいと思います。県内一円(一部近県)の約300の目・耳・鼻腔が広範囲をカバーでき、学芸員さんほどの深い調査は出来なくとも、彼らに不可能な県内全域・広域同時調査の出来るのはすばらしいことだと思います。

更には各人のバラエティーに富んだ学識、職業的知識/技能/資格、趣味、を生かし、水平展開して全メンバーの能力向上も図れると思います。

調査項目の選定も、かつてのグライガーさんの水田のカイエビ等の生物のように学芸員さんの研究テーマに沿うものも、得るものが多いように思っています。

ネズミ使いのオタク又は達人が居られましたら、ネット上でのタイムリーな交流の場を作って頂きたく、検討をお願い致します。

以上

表 題 [もったいない。(その1)]

投 稿 日 [20080125]

名 前 [彦根市 加固啓英]

天水の利用。2080年ごろ、職場の有価処理となるケミドラム(多分ABS樹脂のドラム缶)2個を正規の手続きをへて、有価物に変更し自宅に持ち帰り、そこに風呂の残り湯をバケツ運搬で溜めて庭水・池や水槽での魚の飼育・セメント用の舟での稲作、等に当てていましたが、バケツ運搬中に蹴躓いて廊下を水浸しにすること数回。

家の改築の序に雨樋の水が流入するように縦樋の経路を換えて頂き、以来全ての屋外使用分の水は全てこれでまかなえています。建坪約18坪、その約1/4(約15平米)の天水がここに溜まります。

無造作に大量使用されている、バージンパルプ(ご容赦?差別用語)を多用するティシュペーパーを、再生紙のトイレ用ロールペーパーに置き換えられないだろうか?

そもそもティシュペーパーは第一次世界大戦でのナチドイツの毒ガスに対するイギリス軍の防毒マスクの活性炭の袋の、一見知的に見えるハリウッドスターの化粧落としに売り込んだのが始まり。

再生紙のトイレペーパーは、容器包装再生法で、流通経路と無縁な企業でも作らなければならず、多分長期の死蔵品は、ほとぼりの冷めた頃に焼却されているのでは無いか?

そこで、どなたか以下の様な物を商品化してくれる企業を知りませんか?

食卓や居間で、トイレ用ロールペーパーの使い易いホルダーで眼鏡やリモートコントローラーの収納ポケットと小さな取り外せる塵箱を備えたもの。

企業名やロゴを入れて、販売促進の粗品になると思います。

塵箱にロールペーパー以外の物を入れなければ、溜まったゴミはトイレに流せます。

表 題 [去年のツバメの調査の後で]

投 稿 日 [2008/01/18]

名 前 [彦根市 加固啓英]

去年のツバメの調査はあまり身を入れて出来ませんでした。反省!

調査に当たって、次の点にお気づきの方がおられましたら教えて下さい。

1. 秋に、ツバメを見かけなくなった日にち。
2. ツバメが選ぶ営巣場所の特徴。
3. 特に彦根市西南部の方に。宇曽川のJR鉄橋(30 5236 - 6156)より上流の二つの橋には毎年コシアカツバメが営巣するのですが、下流の境橋に、一昨年腰の白いツバメが、この橋のネイティブのドバトと競合して、攻防の末一つだけ巣を作ったのですが形勢不利。

私は犬連れの観察で、釣り人が居るとあまり近づけないので、どなたか今年しっかり見届けて、何ツバメか、巣の数はいくつかを確認して頂きたいのです。

標 題 [身近な脊椎動物]

投 稿 日 [20080307]

名 前 [彦根市 加固啓英]

身近な脊椎動物の目撃記録(動物の和名・報告者名・場所、年、月、日、時間帯)をテーマと期限を定めたいつもの調査以外に、博物館の蓄積データーとなるように集まるルートを作りませんか。

(例)

私が1972年より住んでいるJR稲枝駅近くの住宅地では、以前はヌートリア、ニホンヒキガエル、等も見られ、割合に信頼出来そうな情報では線路際の水田の放置された湿地にモリアオガエルの産卵が見られたとのことです。

これらは護岸や道路の工事や宅地の造成で、今は見られません。

又、排水路のU字溝化や下水道の完成で乾燥化が進み、道端に普通に見られたノカンゾウ・ヤブカンゾウも消えうせました。

今、我が家で見られる脊椎動物(鳥類を除く)

我が家は水田を埋め立てた150戸程の住宅地(30 5236 - 6145)に有り、隣接して同規模の住宅地有り。

イタチ(ホンドイタチなら♂サイズ、ホンドイタチかチョウセンイタチか不明)隣家の池の魚が狙われているらしい。

アカネズミ、用水路に開口する住宅地を迷走する排水管内を伝って、我が家にも3度ほど侵入。

ピアノのペダルの穴から中に入り鍵盤とフェルトを食い荒し、糞を溜め込み、修理費に悩まされる。

(?)アオダイショウ30cm程の幼体。(庭の低木の樹冠で一度だけ見かけた。)

ニホンアマガエル、毎年多数表れる。(昨年はやや少なかった。)黄色の色素が欠けたか、初夏までは青い個体を見かけるが、夏の終わりには見られない。鳥などの淘汰が働くのか。

(?)ツチガエル、冬に庭を掘ると、冬眠中のこのカエルを掘り当て、あわてて埋め戻す。

シマヘビ、隣家の御主人から、年に一度程「加固さん助けてー！」と声を掛けられる。

近くの水田に放し、退治したこととする。庭の隅に古いコンクリートブロックが有るので、多分冬の塹(トヤ)。

カナヘビ(我が家に常駐)

ヤモリ(我が家に常駐)

* 近くの用水路(文禄川)でテンのサインポストを見かけたことも有ります。

* 愛知川右岸では、タヌキ、キツネ、ノウサギ、イタチ(種は不明)を、荒神山ではキツネ、イタチ、テンのサインポストを宇曽川ではタヌキ、キツネ、イタチ、を曽根沼緑地では、稀にイノシシの足跡、テンのサインポスト(種子の発芽試験中)を見ます。

以上

表 題[何とかならぬか生物用語(その1)]

投 稿 日[200803]

名 前 [彦根市 加国啓英]

環境・自然志向の雑誌等に意見や体験の寄稿を求められた時に使用した生物の和名では、いつも後に釈然としない思いが残ります。

それは和名(又は標準和名)にタイプサンプルの様な基準点がなく、飛んでいる鳥や走り回る哺乳類などの複数の個体を、特に分類学の知識もない一般の人により、日常会話の一部として自然発生的に場所も日時もテンデンバラバラに付けられ、これを総合管理(ブッキング)する組織もないことにより、共通のテーブルで種を限定するには充分には機能しないのです。

又、生物学の書籍を読解しようとする、意味を限定するには日本語(多分世界中どの言葉も同じ)の曖昧さ・相互理解したつものの相互誤解・同床異夢的な部分で理解不能となるのです。

以下に例を挙げます。

和名の曖昧さ

1. 数年前、ドングリの実る樹についての掲示板への投稿に当たって、ある樹木の和名にどれを当てるかに迷い7冊程の図鑑・百科辞典・書籍、を見比べました。

琵琶湖博物館の庭の樹木の名札には「柿」「楠」は「カキノキ」「クスノキ」と「…樹」が多用されており、調べた書籍の中に一冊でも「…ノキ」があればそれを採用することとしましたが、運悪くそれが一冊あったのです。だが印刷物となったものを見るとなにか違和感があるのです。

同様に草本では「…グサ」「…ソウ」の付けられたり、無かったりが目に付きます。

和名がオーソライズされたものとの見方も以下の問題が出てきます。

2. 地元での古来からの名前とのすり合わせ。

* ツシマヤマネコ、イリオモテヤマネコ、等は昔から知られ、土地の名前があったところに、外来種ホモサピエンスの生物学者に、勝手に和名をつけられてしまったことになります。

* 詩歌のミヤコドリ(ユリカモメ)と和名のミヤコドリがあり、和名こそが正しいと主張する組織も無い。同様にタイプサンプルが無いからツチノコ騒動にけりがつかない。姿のブッポウソウと声のブッポウソウ(コノハヅク)などとややこしい話になる。

和名に命名法はなく、系統分類とは無縁なものが多い。

* 「…カラス」について。

カラス科で系統的にも近く、色や形の似たハシブトガラス、ハシボソガラス、ミヤマガラス、外見のやや異なるホシガラス、コクルマガラス、はたしかにカラス。縁もゆかりも無い「黒いからカラスにしておけ」のカワガラス、ウミガラス、外国にはややこしい名のハシブトウミガラス、それでもカササギ、オナガ、カケス、は蚊帳の外。

まだまだ云いたいことが有り、次回に続きます。

表 題 [雑給水として天水を生かしませんか。]

投 稿 日 [20080310]

名 前 [彦根市 加固啓英]

会社が業者さんに廃棄物処理を委託したケミドラム(プラスチック製のドラム缶)2個を、手数料は紙コップのコーヒ一杯で、正規の手続きを踏んで有価物に戻して頂き、車のルーフキャリアに積んで持ち帰ったのが1980年代。

以前はバケツ運搬で風呂の残り水を入れ、雑給水として庭水、池、セメントの舟の稲作(2面)、60cmの水槽、火鉢大のメダカの鉢、長靴等の汚れ物の洗浄に使っていましたが、バケツ運搬中蹴躓いて部屋を水浸しにすること数回。

そこで昨年2月、家のリフォーム時に雨樋の雨水が流れ込む配管を付けました。

屋根の面積約18坪の約1/4(約15㎡分)の雨水が流入・利水出来、これだけで飲料水以外は全て賄え常時余裕があります。又、多分相当の水道料金の節約になっている筈です。

皆様の回りにリターナブル使用の出来ない、特に用途の無い、廃棄待ちのケミドラムか大容量のプラスチック容器は有りませんか？

又、天水の利用を試して見たいとお思いの方は居られませんか？

要望が御座いましたら、雨樋からの給水配管、利水側のコック配管、オーバーフロー側配管、等の誰にでも出来る日曜大工的ノウハウをお知らせします。

標 題 [希望する調査項目]

投 稿 日 [20080313]

名 前 [彦根市 加固啓英]

フィールドレポーターの調査項目候補は多分多すぎる程よせられていると思いますが、今年の調査とは限りませんので、以下も検討に加えて下さい。

実際に食べた、野生(or 野生化)生物、又は食材中、可食部分と見做されず、厨芥扱いされ易い部分。

報告内容は、集計等の手数あまり掛からないものとし、報告は e-mail とする。

採取情報

場所とその状況、(湖岸、水田、河川敷、里山、等)

年月日、(採取に必要な場合は天候も。)

調理法や食べ方、

伝承的なものも含む。

トピックス、

雑記、思い出、等、集計にならない話題。

* 私の例、

春の七草粥には自宅周辺で採取。

ハコベ類、セリ、ナズナ、タビラコ類(春の七草の仏の座)、ハハコグサ(御形)

他に、フキノトウの落味噌、(刻んで味噌、砂糖、お湯で混ぜるだけ。ほろ苦い。)

ツクシの佃煮、(刻んで、醤油、砂糖、味で煮る。タバスコを加えたら、折角の苦味が薄れてしまった。)

* 今後も悪食に徹する覚悟。

候補、セイヨウカラシナ、野生化したニラ、タニシ類、アメリカザリガニ、キクイモ

「虫たちに聞いてみよう」アンケートについて

フィールドレポーター・スタッフ(森)

昨年晩秋から今年3月末にかけて、表題のアンケート調査をお願い致しましたが、残念ながら、4月26日現在、僅か6名の方からのご回答しか得られませんでした。

気温の低い間は、虫たちの活動もにぶく、なかなか目に付きにくく、このような調査の難しさを痛感したしいです。

回答頂いた、全てのデータを下表にまとめました。 これをもって、報告書に変えさせていただきます。 回答頂きました皆さん、有難うございました。

見つかった虫		場 所	冬の気温	積 雪	地 域
カメムシ	1匹		高低差が大	少ない	大津
カマキリ	10cm				
カマキリ	85～200cm			少ない	近江八幡
カメムシ	1匹	日のあたるベンチ	高い		野洲
テントウムシ	2～3匹	日のあたる草の中			
ハラビロカマキリ	80～70cm				
チョウセンカマキリ	80cm				
オオカマキリ	25cm				
アシナガバチ巣	200cm		高い	少ない	湖北
チョウセンカマキリ	200cm		平年並～低い	並～少	マキノ
ハラビロカマキリ	100cm		平年並み	平年並み	

* カマキリ類については卵のうの地上からの距離

以下に、寄せられました自由意見を紹介させていただきます。

K.Y さん

ハイキングコースを散策中に、トカゲ(1匹)、サワガニ(1匹)、アリ(5～6匹)、カメムシ(1匹)、にであいました。 トカゲは落ち葉の音をカサコソさせながら、私の前を横切り、サワガニは水辺の石のそばでキョロキョロしている。 アリは公園のベンチの近くで、お仕事中。

暖かい日ならではのことでしょう。

滋賀県は南と北で積雪量や気温に差がありますが、それぞれのカマキリの卵のうの地上からの高さにも、南北の差は見られるのでしょうか。

M.T さん

野菜作りの支柱として竹を取りに藪へ入ってみると、地面にはまだキノコがいっぱい。暖冬で枯れていないのです。

気候変動で、雪が少ないのも北国にとってはありがたいです。

暖冬と喜んでいましたが、元日夜、大雪警報、あっという間に10cm余りの積雪。雪があると寒さが厳しいです。

自然は、抜け目なく帳尻を合わせてきますわ。

T.N さん

オオミノガがピンチという記事のサンケイ新聞のコピーを同封して下しましたが、京都新聞でも同日‘08, 1, 24の新聞の記事に取り上げられていましたね。

‘06～07の調査でも感じたのですが、幼虫のいない空のミノが枝にぶら下がっているのが多く見られました。

‘08, 02 近くの宅造地の雑木林のヤマザクラの細い枝に10コ以上ぶら下がっていましたが、全部空になっていました。その外のみノムシについても個体数が減っているように思いました。

昨年(‘07)の秋はカメムシは大変多かったと思います。洗濯物にも何度もくっついてきました。独特の臭いには閉口しました。何度も息を吹きかけてからピンセットでつまみ出しました。米作りにも害虫で種類は違うのですが駆除に一回だけ農薬を使うのですが、それ以外は農薬を使わないよう畦畔の草刈をしています。本当は少くともカメムシの傷があっても米の等級が下がらなければ農薬を使わなくてもよいのに思います。

地球温暖化問題について

多胡さんのレポートのように私たちのまわりでも、子供の時には見られなかった動植物が見られるようになったり、子供の時には当り前に見られた動植物が見られなくなったりしています。例えばセミでは、ほとんどがアブラゼミとニイニゼミだったのにヒグラシやツクツクボウシが多くなりました。近いうちにクマゼミの姿が見られるかもしれません。

アサギマラダもサワヒヨドリの周りに群舞するようになりまし、昨夏はナガサキアゲハを見ました。

ご飯つぶでいくらでも釣れて、皆から馬鹿にされていたボテ(タナゴ)はすっかり姿を消し、バスがびわ湖どころか溜池にまですむようになりました。

赤い腹をしてグロテスクは“いもり”やドーナツ位ある“ウマビル”、コオイムシ、タガメ、ゲンゴロウ、水スマシ、アメンボウも見かけなくなりましたが、一時姿を消していたタニシやヒルが姿を見せ初めてゆらゆらと吸いついてくる“ヒル”が手に取りついてほっとする位なつかしく思いました。

私の住むマキノの浜辺でも、ヒルガオ、月見草、なでしこが姿を見せなくなりアスファルトや芝草で覆われる等しています。

最近よく見られるようになったもの

ブラックバス	セイタカアワダチソウ
ブルーギル	ガマ
ワカサギ	クズ
ビワマス	
	アサギマダラ
カイツブリ	
ガン・カモ類	オオカナダモ
コハクチョウ	コカナダモ
カワウ	
ヤマドリ	ヒメタニシ
キジ	
アオサギ	

最近ほとんど見られないもの

タナゴ	ヒル	ミズスマシ
ギギ	ウマビル	コオイムシ
ワタカ		アメンボウ
ヒガイ		
カマツカ	タニシ	ゲンゴロウ
オイカワ	シジミ	タガメ
ライギョ	ネジレモ	イモリ
メダカ	ヒシ	ウシガエル
ウアビ		
ヒタキ		

H.K さん

今年はカマキリの卵も少なかったようです。

12月から1月中旬にかけて、地図の内はたいいの道路傍は探しました。(散歩のコース内です)

皇子山公園のヤマブキ枝上に1コ。 南志賀のヨモギの茎上に1コ(共に高さ30cmぐらい)

カメムシはクサギカメムシを6年前に逢坂山で一匹見ただけです。 大津はクサギの木が少ないので、虫も少ないのでは。

7年前まですんでいました岐阜県揖斐郡揖斐川町津波の中学校で、16年いましたし、寄宿舎の係もしていましたのでクサギカメムシも観察していましたが、寒さと関係によようです。

冬期寄宿舎を開設するとき、木造二階だての舎内の畳を上げて大掃除するのですが、畳の下に潜り込んで越冬したのが、ミイラになって多量に出ました。信じられないかもしれませんが、箕に一杯ぐらい毎年出ました。 昭和39年の豪雪・超低温の冬に越冬したカメムシと、その後のカメムシとほとんど量は変わらなかったはずです。

こちらでも琵琶湖は厚い氷に覆われそうですが、とにかくシベリアとオホーツク海との気圧傾度は平年の3倍、二万年に一度の猛烈な寒波で、夜寝床の天井からダイヤモンドダストが降ってきました。 杉林の電柱ほどの大木が幹内の水分が凍結するため真中から裂けて、吹っ飛ぶという凍裂現象も見ました。 が、カメムシの戸内越冬数は変わらなかったし、ハチの巣もふだんと同じく低く作られていました。

揖斐地方では“青山に降ると、その年や降らん”と言っています。「まだ紅葉していない山に冠雪がある年は、年内に平地の積雪はない」ということだそうで、今冬はまさにそれでした。戦後3回ほど、そんな年がありましたので、この言い伝えは本当だと思います。



内陸の池に

守山市の鳩の森公園「宮川池」の水は、農業用水として使われてきた。2007 年秋、琵琶湖岸から 4.5km 余り離れた内陸部にあるこの宮川池で、熱帯系の外来植物、ボタンウキクサが繁殖していた。(その 既報・流出するボタンウキクサ)

この宮川池の水は江西川(こうざいがわ)へ流れ出し、法竜川に合流して、赤野井湾に注ぐ。2007 年 11 月、江西川水系と法竜川下流で、ボタンウキクサの分布を確認した。2008 年 3 月初旬にも、江西川本流の中流域の数箇所でも分布を確認できた。江西川の宮川池より上流では、ボタンウキクサの確認はなかった。

生育に適した水温？

赤野井湾で発見された群落は、2008 年 2 月末にはほぼ消失した。宮川池の群落も、池の法面改修に伴う干し上げで、2008 年 3 月初旬には見られなくなった。ところで、3 月に入ってから、江西川の中流で分布を確認したのは、江西川が生育に適した水温であったためと推察される。

江西川の源流は工場の冷却水として使われており、2008 年 3 月 7 日の計測では工場排水口では 21.4、江西川の中流で 17.9、法竜川に合流直前で 13.6 であった。同日、宮川池の水は 14.5 であった。これは改修工事後であり、農業用水としての需要もないことからポンプアップはなく、公園内の別の湧水 16.2 が流れ込んだものである。

080307 他の河川の水温

因みに、工場排水の 2 水系(江西川・南川)での計測は、排水口近くで(江)20.8・(南)20.5、上流で(江)20.4・(南)19.7、中流で(江)19.3・(南)18.2 を計測したのに対し、江西川と同じ野洲川扇状地を流れる、他の水系 5 川の中・下流の水温は、石田川 15.7・金田井川 13.0・守山川 11.2・新守山川 9.5・境川 8.8 であった。

また大発生？

江西川でボタンウキクサが生き残ったのは水温が高いためで、2007 年に赤野井湾で大発生したボタンウキクサは、宮川池や江西川～法竜川の越冬個体が有力な発生源の一つと考えられる。

また、江西川では水温が高く、冬でも越冬している状態が確認されたことから、このまま放置すれば、ボタンウキクサの越冬地として今後も大発生の原因となる恐れが高い。



080323 江西川下流で



080411 江西川下流での回収作業

吾輩は浮き草である

H.M

吾輩は浮き草である。でも、立派な根もあり、花も咲かせる。

猫とちがい、れっきとした名前がある。日本の名前はボタンウキクサ、英語の名前を **Water lettuce** と言うが、戸籍上は苗字を *Pisita*、名前を *stratiotes* というのが正式な名前である。吾輩の親戚には、東北の郷土料理で有名な「いもに」にはなくてはならない「サトイモ」、「おでん」には欠かせない「こんにゃく」、尾瀬沼の「水芭蕉」はたまた滋賀県今津の「ザゼンソウ」などがいる。



吾輩の出身地は冬のない熱帯～亜熱帯地方で、日本には昭和の初めに連れてこられた。当時は珍しい浮き草として、あちこちの園芸店の店先を飾ったものである。今から4～5年前には一株100円前後で、園芸店やホームセンターの水槽から一般の家庭に引き取られて来た。ところが、日本の冬は吾輩にとってはなかなか厳しく、庭の池や水槽では、多くの同胞達が枯れてしまい、冬を越すことは出来なかった。

しかし、人間達の暮らし方が変わり、暖かい家の中に水槽を持ち込み、いろいろな水草を観賞用に育てるアクアリウムとか、電気を使って水温を高くして、色とりどりの熱帯魚を飼う習慣が広がり、吾輩も同居させてもらい、何とか冬を越すことが出来るようになった。

ところが、人間たちには厭きっぽい者が多らしく、もう見飽きたのか吾輩たちは公園の池とか、近くの川などにほり出されてしまった。放り出された仲間たちの大多数は、冬の寒さに耐えられず、昇天して行った。

しかし、工場の温排水が排出されていたり、地下水が汲み上げられて、それが流れ込んでいて、冬でも暖かい水溜まりを見つけた、運のよかった数少ない仲間が、冬の寒さを辛うじて堪え忍び、春の訪れとともに、水面一面を覆いつくすまでに子供たちを増やすことが出来た。

吾輩たちの仲間が苦勞して、新天地を見つけ、子孫繁栄を図りだすと、勝手な人間たちは、吾輩たちが「日光を遮ってしまったり、水の中の酸素を吸いすぎて、池や川の水質を悪くしている」と難癖をつけた上で、「特定外来生物」とかに指定してしまった。

今では、吾輩たちは日本全土で、駆除対象に指定されてしまい、昔のように園芸店の店先に並ぶことも出来なくなってしまったし、家庭の水槽で可憐な姿を楽しんでもらうことも出来なくなってしまった。ちなみに、吾輩たちを店で売ったり、友人に譲ったりすると、人間たちには、3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金が課せられるとのことである。

美しいもの、珍しいものというだけで、むやみに外国からつれてこないでほしい。つれてきたからには、最後まできちんと面倒を見てもらいたい。「もう飽きた」というだけで、屋外に放り出したりは絶対にしてもらいたくない。

吾輩たちの不幸な現状を繰り返さないためにも、人間たちに強く要望する。

フィールドレポーター調査内容についてのご意見(2008年4月14日現在)
新年度以降に調査してみたいテーマのアンケート結果です。

<調べてみたいテーマ>

- ・ あれやこれや・・・
- ・ 琵琶湖の周りが北限の生物を調査。何年か後、どうなっているのか。
- ・ ツバメの巣を No 登録し、長期観察できないか？ツバメの帰る月日は？
- ・ グラスホッパーと呼ばれるイナゴ、バッタ、キリギリス等の採集、自分たちの呼び名、正式和名など
- ・ どんぐり
- ・ すずめ、氷の日数、霜の日数、最高気温
- ・ 雑草のもつエネルギー(雑草の利用方法等)
- ・ 旧草津川廃川後の堤防と川のその後
- ・ わが町の桜(名桜について)
- ・ 琵琶湖に繁殖する「藻」の種類・季節など
- ・ チッチゼミの鳴いていた所、時期調べ、水辺の鳥、水生昆虫のなにか
- ・ 降雨について県をいくつかの地域に分けて統計したらどうか、風向きについても何かを
- ・ 春・秋の七草など、古来から日本各地に自生していた有名な野生植物の現状や県内の分布など
- ・ 周辺にある渋柿の種類(昔は自宅周辺に多くの木があったような気がします。用途は、干し柿、柿渋等ではなかったかと思います)
- ・ カエルがずいぶん減ったけど、もう調査は不要でしょうか？スズメも見る機会が減ったけど、巣の調査は面白いかも。
- ・ 森林、平野、水辺、淡水の各生態系
- ・ ヨシ原の生き物全体について調べてみたい。
- ・ ホテイアオイの水質浄化力、汚染度、ヒドリガモが葉や茎を好んで食べているが、他にも食草にしている水鳥がいるかどうかなどの調査
- ・ 家の近くの神社および鎮守の森の樹木についての調査
- ・ 野鳥、古い寺社仏閣の歴史とか滋賀県にはたくさんありますが、その歴史をとり上げて改めて認識したい。
- ・ 道標や石橋、特に石造の道標を調べる。
- ・ スズメなどの小鳥が少なくなったように思うので心配です。
- ・ 私が子供だった頃(昭和30年ころ)の遊びを記録しているのですが、今の子どもたちはどんな遊びをしているのかなと思います。
- ・ もう一度、タンポポ、ツバメ、ガマ、お雑煮などを調べてみたい。
- ・ 外来魚の分布。
- ・ 身近にいる食べられる虫
- ・ 水と暮らしにかかわりに関するものなど;例えば使われている「かばた」など
- ・ 主に、歴史的・文学的なテーマ(滋賀県下の)
- ・ 外来植物の分布など
- ・ 滋賀県の高山や低山の花について報告できる機会を与えていただけたら、嬉しく思います。
- ・ 月見草(オオマチヨイグサ[オニ、コ、ヒメを含む])の分布。近年セイタカアワダチソウに負けていたのが、復活の兆しが見える。
- ・ 残したい強度の行事、伝統など。
- ・ 木につく虫調べ(我家の場合、柿の木に付く毛虫 etc.)

琵琶湖博物館からのお知らせ

博物館・生活実験工房の田んぼ事業の日程表です。いずれも生活実験工房で10時から開始になります。日程の変更等ある場合がございますので、詳細はFR担当学芸員に連絡をお願いいたします。

予定日	作業 / 行事	その他	備考
4/20(日)	苗代づくり、種まき	山菜採り	
5/18(日)	田植え		
6/22(日)	草取り / 雨乞い	観察会	
7/23(水)		竹細工、紫蘇ジュースづくり、フルギル食	箸、カップ、水鉄砲
8/3(日)	草取り / 虫送り	笹焼き、観察会	
8/17(日)	案山子・鳴子づくり	かんぴょうづくり	
9/28(日)	稲刈り(シシクワズ)、ハサ掛け	竹伐採	
10/5(日)	稲刈り(羽二重もち)、ハサ掛け	観察会	
11/2(日)	脱穀、(唐箕がけ)	木伐採	
11/30(日)	唐箕がけ、収穫祭	木の実とり、薪割り、柴刈り、落ち葉かき、わら細工づくり	イチイガシの実拾い、干柿づくり
12/21(日)	/ 餅つき		
12/23 (火・祝)	/ 門松・しめ縄づくり	保存食づくり	大根漬、きなこ
1月上旬	/ どんど焼き	炭やき	オイル缶炭やき、鑑賞炭、炭火焼き
1月下旬		わら細工づくり	わら草履、藁タワシ、鍋つかみ
2月上旬	排水路かき	こんにゃくづくり、キノコ植菌	シイタケ、ヒラタケ、ナメコ
3月下旬	田起こし、堆肥まき	企画募集中！	

フィールド・レポーター 5月・6月・7月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
5月10日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
5月24日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
5月25日(日) 13:30～	フィールドレポーター祭 交流会と楽しい催し♪	博物館生活実験工房
6月 7日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
6月14日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
7月 5日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
7月19日(土) 10:00～17:00	定例会・掲示板発行	博物館交流室

(おことわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

4月から、フィールドレポーター担当に新たに中藤容子学芸員が加わりました。これからの活動で、楽しく貴重なお話を聞かせていただけることを楽しみにしています。

春になり、植物も動物も生き生きとした姿が見られるようになりました。今年の桜は、早いと聞いていたのですが、私は例年通りかな？と感じました。毎回入学式の度、桜が咲いていたような、そんな記憶があります。

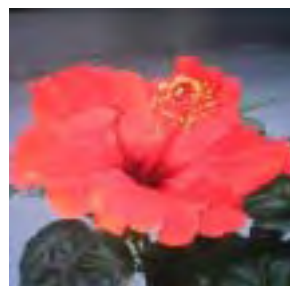
春で思い出するのが、「カラスノエンドウ」です。小学生の時、「シーピピ」と呼び、実を草笛にして吹いていました。「カラスノエンドウ」を見つけて「シーピピがある！」と言い、他府県の友人に驚かれたことがありました。友人は「笛」や「草笛」と呼んでいたそうです。ちなみに、姉は「シーピピ」、母は「シービー」と言っていました。他にどんな呼び名があるか、調べてみたいです。

(担当 FRS山中佐紀子)



掲示板

2008年度 第3号(7月) 通巻第51号



ニーハオ



琵琶湖博物館交流グループに所属している楊 平 (Yang Ping) と申します。

今年度の第1回フィールドレポーター交流会は、5月25日(日)に当館生活実験工房において、皆さんの明るさ、楽しそうな雰囲気包まれるなか、開催されました。

フィールドレポーターのスタッフをはじめ、多くの方々のご協力等に心からお礼申し上げます。交流会にご参加された地域の方々もスタッフと共に、竹とんぼや料理作り、調査発表会などを楽しまれ、心に残る交流の時間を過ごせたのではないのでしょうか。

私の主な専門分野は環境社会学ですが、中国・太湖湖岸の集落における水利用との比較を念頭において、琵琶湖集水域の農村における自然利用と管理のあり方について、調査研究を続けております。「湖」をフィールドとして、「自然と人」や「水辺環境」をキーワードに、皆様からのアドバイスなどをいただきながら、琵琶湖地域の人々とともに学んで行くことに楽しみにして頑張っていきたいと思っています。また「湖」でつなぐ日本と中国との「交流」がさらに進展するように、微力ながらも一助になればたらと願っています。

今後も、地域のより多くの方々が琵琶湖博物館や「フィールドレポーター」等の交流活動にご参加していただけますよう、どうか宜しくお願い致します。

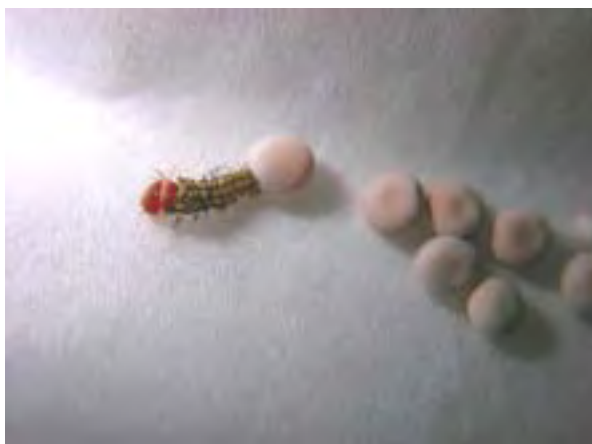
(FR 担当 楊 平 学芸技師)

***** もくじ *****

表 題	筆 者	頁
自己紹介	楊 平	1
天蚕飼育日記	多胡好武	2 ~ 3
「みちしるべ」調査の経過報告	浅井良英	4
「みちしるべ」調査のポイント	浅井良英	5
オオミノガ定点観測	森 擴之	6
祭りは楽しかった	津田國史	7 ~ 8
生活実験工房からのお知らせ	西村知記	9
鳥の巣箱とスティックトンボについて(その1 ~ 3)	加固啓英	10 ~ 12
ブラックバスを食べたよ!!!	草津家猫	13
琵琶湖博物館からのお知らせ		14

天 蚕 飼 育 日 記

大津市 多胡好武



4月15日 信州大学から送られてきた天蚕の卵を受領、幼虫から、繭を造り、成虫の蛾になり、交尾産卵という一連の飼育がスタートしました。

4月16日ゴマ粒ほどの卵から5～6ミリの幼虫が生まれてきました。

生まれたときは5～6ミリでしたが1週間程で15ミリ程となり、やく3倍の成長です →



←4月25日幼虫は2cmとなり食欲も旺盛です。



5月7日脱皮を繰返し順調に成長しています。
3齢期(4回の脱皮と5つの齢期を経過して熟蚕となり繭をつくる) →



5月14日 脱皮する皮膚を木の枝に絡ませ、必死で脱いでいます。皮膚が乾燥していると脱げない時があるようで、そんな時は潤いを与えお手伝い。

←





← 5月25日、5齡期の大きさとなりエサの
コナラの葉は毎日採取して交換します。
もちろんフンの大きさ、量も多く思っていた以
上に世話がやけます。

5月31日いよいよ繭つくりに入ります。幼虫の体
は小便のような水分を吐き出し(肛門から)、体形
が2 / 3位に縮んだ様です。 →



↑ 5月31日いよいよ糸を吐き出し、丸めた葉の中
に自分の体を巻くように糸で繭を造っていきます。 →



← 6月1日、営繭を初めました。1週間ほどで化
蛹し、7月上旬頃より羽化するものが現れ、交尾、
産卵する。

繭1粒から長さで 600 ~ 700m程度、1,000 粒で重さ
250 ~ 300g程度の糸が得られるとのこと。

カイコは古くから飼われていたようで……

仁徳天皇の浮気がバレて、皇后に謝るための言
い訳話が「古事記」に記されており、そこに

“「大後の幸行(イデマ)しし所以(ユエ)は、奴理能
美(ヌリノミ)が養(カ)へる虫、一度(ヒトタビ)は葡(ハ)
ふ虫になり、一度は殻(カヒコ)になり、一度は飛ぶ鳥
になりて、三色(ミクサ)に変る奇(アヤ)しき虫あり。こ
の虫を看行(ミソナ)はしに入りましにこそ。更に異
(ケ)しき心なし」といひき。” とあります。

「みちしるべ」調査の経過報告（２００８年６月２０日現在）

F R S 浅井良英

５月中旬から始めました「みちしるべ」調査の経過を、下記の通りお知らせします。

・報告者数 １０人

・報告件数 ８６件

・地域別の報告件数（報告者の住居地ではない）

大津市：２６件	草津市：１５件	守山市：３件	野洲市	：１３件
竜王町：１件	米原市：７件	栗東市：２件	近江八幡市	：５件
甲賀市：５件	安土町：４件	湖北町：５件	（計	８６件）

以上の報告のうちには、同一「みちしるべ」についての報告がありますので、「みちしるべ」としては８２本です。

・設置年代は古くは延享元年（１７４４年）のものから平成１８年（２００６年）のものまで。報告の約３０％のものは移動されていて、道路整備や区画整理がその理由のようです。

・「みちしるべ」の内容としては寺社への案内が最も多くて、次いで地名（草津、八幡、矢橋など）となっています。琵琶湖の近くでは、“渡し場”への「みちしるべ」があり、幹線道路（東海道）と湖岸の渡し場とをつなぐ道があったようです（今もそのように呼ばれている）。案内先として珍しいものには“□□墓碑 従是西五町”というのがあり、そこに行ってみると、墓地の傍らに大きくて立派な石造の墓碑があり、生前の事跡が記されていました。どうも墓地よりも墓碑の方が大切に有名なようでした。また案内とは無関係の内容ですが、“柳緑花紅”と記されていて、なかなか心地よい「みちしるべ」もあります。

・この調査期間は８月３１日までとし、報告いただいた内容をまとめたいと思います。今後も、ちょっと出かけた時や遠出をした時に「みちしるべ」を見かけたら、是非お知らせください。「みちしるべ」データベースを充実させていきたいと思います。

「みちしるべ」調査のポイント

FRS 浅井良英

外出した時に、たまたま「みちしるべ」を見つけることがあります。しかし“調査”のために出かけるとなると、時間も限られていて、むやみにあちこちと回っても徒労に終わります。僭越ですが、私が、これまでの調査を通じて感じたポイントを紹介します。

1) 道標関連の本を参考にする。

(A) 木村至宏 『近江の道標』 民俗文化研究会 1971年

(B) 木村至宏 『近江の道標』 京都新聞社 2000年

どちらも、木村氏が中心となって調査し、まとめられたものである。(B)は(A)で調査した道標の中からいくつかを選び出して、その後の変化もふくめて読物風にまとめたものである。したがって、我々の調査では(A)の方が参考になる。特に“資料編”をうまく利用すると良い。ただ、1971年頃までの調査結果なので、その後に消失したり移設されたりしているものがある(だからこそ、今回の調査の意味があるのですが) また巻末の地図上には当該の道標番号が示されているが、その指示しているポイントが正確ではない、などに留意すること。

2) 旧街道のルートを、あらかじめ頭に入れておき、その街道筋を調査する。

近江の街道に関する本はたくさんあり、また市町の観光協会などでは、旧主要街道や旧地方街道(東海道、中山道、朝鮮人街道、北国海道、北国街道等)のルートを復元した案内用のパンフレットも用意している。

『近江輿地誌略』は享保19年(1734)に書かれたもので近江の地誌に関する古典ですが、新訂版は読みやすく編纂されている。近江の旧街道や寺社を詳述しているので、旧跡ポイントの確定や、道標の文面の解説に役立つ(図書館で閲覧できる)。

3) 昔からの集落や町などの“中央通り”沿いに調査する。

昭和40年頃までの地図(1/25000のものがいい)で、道路の両側に家並みが続いている付近や、集落の外れ、分岐点などを目印とする。その近辺の人にたずねるのが最も確実であるが、近辺の事情に詳しい人には年配の方が多く、道標だけにとどまらず、在所の歴史や旧跡、特産品から有名な出身者まで一通りの説明をしてくれるので、時間的な余裕を考慮した上で、たずねることにしたい。

いづれにしても、気楽に、散歩がてらに調査を進めましょう。文面の変体仮名が読めた時にはビールもうまいし、江戸時代の古い「みちしるべ」にであうと“よく頑張った”と励ましたくなるし、調査者それぞれの感動を味わってください。何度か調査に出かけていると、“道標の匂い”がします。私は自転車で調査をしていますが、自動車やバイクで調査する場合には、よそ見運転とならぬよう、くれぐれもご注意ください。

オオミノガ 定点観測

2008-06-18

守山市 森 擴之

定 点 : 守山市運動公園南口脇のウバメガシワ
メッシュコード : 5235-4778

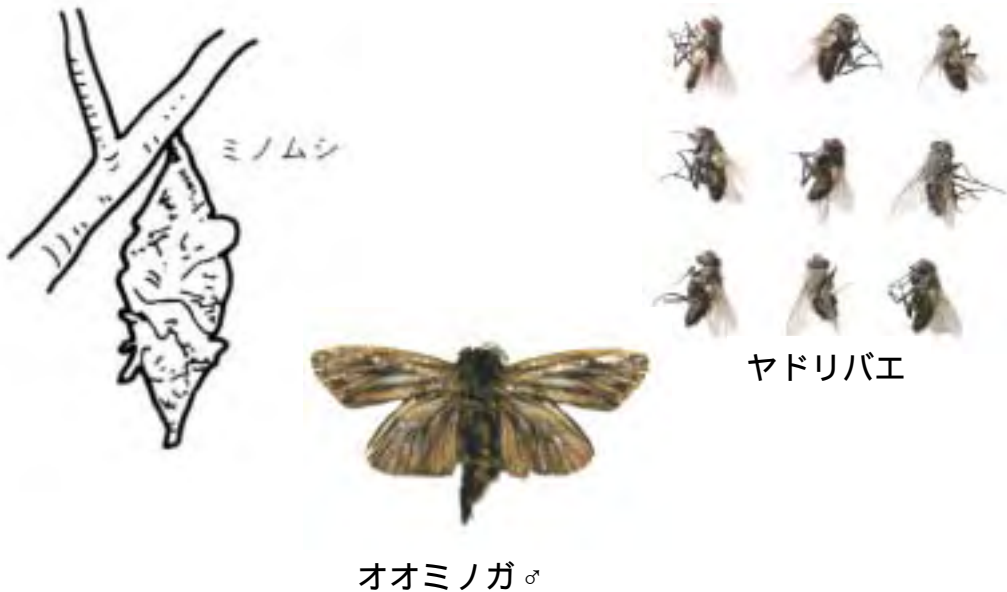
2006 年 この地点から5個のオオミノガの蓑を採取
一個から雄のミノガが羽化し、残り4個からは、ヤドリバエが羽化した。

2007 年 前年同様5個のオオミノガの蓑を採取
4個からヤドリバエが羽化し、残り一個はもぬけの空(脱皮ガラもなし)

2008 年 現時点(2008-06-18)、オオミノガの蓑、一つも見られない。

さて、何時になったら、オオミノガが帰ってくるでしょうか！！！！

以上



参考 : 掲示板 2008 年度第1号(2月) 通巻第49号

祭りは楽しかった

FRS 津田國史

それを「フィールドレポーター祭り」にしようと、定例会での検討課題に挙がったのは、2月の最初の会合であった。今年の交流会を、これまでの交流会とは違ったものにしたいとの思いは、スタッフの共通意識としてあったので、「祭り」という形にすることに誰も異議はなかった。

中身をどうするかを検討を始めた時、「私がスティックトンボを...」と最初に手を挙げたのが、Kさんだったので、ワークショップはそれに決まった。そして、「それだけでなく、何か美味しいものも...」と声が出て、以前、伊丹市昆虫館との交流会で、伊丹の方々に提供して好評だった「ブラックバスの刺身」をぜひ出したいと、そのおり食い逸れた大方のレポーターの願望が噴き出して、「異議なし」で「外来魚の賞味」が決定した。

で、琵琶湖の魚とは全てお知り合いの前畑さんが、「任せて」と応えて下さり、刺身の材料は、前畑さんをお願いして、フィールドレポーター祭りのお膳立ては、めでたく出来上がった。

課題のフィールドレポーター調査のまとめは、ツバメ、ボタンウキクサおよび昆虫の予知能力が、昨年度の調査課題であったので、それぞれの担当者から報告することになり、担当の学芸員に、当日の日程調整を依頼して、フィールドレポーター祭り企画の全てが完了した。

祭りの中身は決まったが、問題は、参加者を集められるかどうかだった。フィールドレポーター祭りの5月25日(日)に合わせて、実験工房を予約したが、レポーターの皆さんには、掲示板などで周知できるので問題はないが、一般の来館者には、当日の館内でしか伝えられないし、わざわざ実験工房まで、足を伸ばしてもらえるかどうかも気がかりだった。

しかし、これは杞憂であった、当日は子供連れの家族の参加が多く、スタッフは応対に追われたのだ。

当日、天候もまずまずで、気がかりだった一般の来館者も集り、工作台に用意された材料に手をだす子供たちの歓声が広がりはじめた。

Yさんが、大きなブラックバスを捌きはじめると、大人の参加者は、外来魚を巧みに捌く、Yさんの手元に注目し、刺身に出来上がる過程を興味深く見つめていた。



子供たちは、魚にはほとんど関心がなく、専ら羽根削りに熱中していた。しかし、興味はあり、意欲もあるが、どこをどうやって削れば、高く飛ぶ羽根が出来るかの知見はまったく無く、やたらサンドペーパーに擦りつけるだけの子供がほとんどで、材料には、削る部分がマークキングされているが、それが何を意味しているのかも判らないようだった。



親もアドバイスできず、戸惑っている家族もあり、スタッフの説明に、子供は改めて挑戦して、何とか出来上がった羽根を、うれしげに見せびらかせていた。子供が多く集ると声高になり、残念だが、スタッフの説明が届き難く、作業手順が十分に理解できないようだった。

刺身が出来上がり、卓上に出されると、一斉に手が伸びる。この琵琶湖博物館に来て始めて味わう外来魚に、どの顔も満足気であった。私たち FRS も、あっさりした食感に、これは琵琶湖の新しい味覚になるのではとの思いを抱いた。

外では、自作のスティックトンボの飛翔実験をする子供あり、内では、懸命に羽根作りに挑む大人、草の実ダーツに何度も挑戦の人、ブラックバスを賞味する人など、皆さんそれぞれに、初夏の午後を愉しんでもらえて、フィールドレポーター祭りは大変盛況であった。企画検討、実施までを共にしたスタッフと、充足した思いで実験工房を閉めていた。

この日のために、飲み物・容器なども全て用意して、わざわざ遠くから来て、手伝ってくださった、レポーターのHさんには、大変ありがたく感謝しています。フィールドレポーターの繋がりの有難さと、深さを知らされた、嬉しいひとときでもありました。



生活実験工房からのお知らせ

工房の田んぼ行事は、はしかけ・FRの方を対象に行っています。

【活動報告】

4 / 20 (日) 種まき、苗代づくりと屋外展示の野草観察

17名の参加がありました。田植えのための苗を育てる苗代づくりを行いました。その後、屋外展示の野草を観察し、簡単に調理して食べられるものを採取して、お昼に食べました。



5 / 18 (日) 田植えとお茶摘み

19名の参加がありました。田植え作業を行い、今年もシシクワズ(うるち米)と羽二重(モチ米)を植えました。
(工房前の不耕起水槽田んぼにもシシクワズを植えました！)

終了後、屋外展示のお茶を摘んで茶葉にしました。しかし先客がいたようで、すでに採取されたものが多かったです。^_^)



【7 - 8月の活動予定】

7 / 23 (水) 工房納涼祭: 10時から。工房前集合。

@竹や作物でいろいろなものを作ります。

8 / 3 (日) 草取り作業(第2回)と虫送り&笹焼き行事:

15時から。工房前集合。

@二回目の草取りを行います。今年はアゾラがびっしり。草すくいになるかもしれません。

8 / 17 (日) 案山子・鳴子づくりとかんぴょう: 10時から。

@稲穂の実が膨らみ始めます。鳥やけもの? よけに案山子や鳴子などの追い払い用具を作ります。



皆さんお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

実験工房担当: 西村知記 (tomoki@lbm.go.jp)

表 題 [鳥の巣箱とスティックトンボ(その1)]

投 稿 日[20080526]

彦根市 加固啓英

昨日の琵琶湖博物館・実験工房での「フィールドレポーター祭り」のクラフトのお世話をさせて頂いた者です。クラフト関係での学童達との接点が他にもいくつか有るのですが、何時感じるも歯痒く残念に感じる点に今回も出会ってしまいました。

そこでもっと工作の面白さを知って馴染んで頂きたく、補足説明させて頂きます。

* ちょっと残念な点。

1. 事前にクラフトへの参加人数や年齢層が分からない為、材料の準備等が難しい。
2. 時間が限られている為、あらかじめ用意した部材を組み立てるだけの作業となり、折角の物を作り上げる面白さが半減してしまう。
3. 五月雨(さみだれ)的に各人がバラバラにスタートする為に、初めから同じ説明を参加者の数だけ繰り返す事となり、十分に伝えきれない。

たら、もっと行き届いた物になります。

4. 小学校や公立図書館でのクラフトの会では火と刃物を使わせることに難色を示されま改善案:初めにホワイトボード等で図入りで説明した後で、一斉に作業をスタートさせられすが、これでは他の動物と人間の違いの大きな部分を切り捨てることになります。

牛乳の紙パックをテープで留めて「これが工作だ」と思われる世代を作っては不味いと思います。

今回使用した材料は実験工房の建屋の向かって左の軒下(トイレ側)に置いてありますので、後日他の物と間違え無い様に表示しますが、それまではF.レポーターの居る日に来て頂き自由に持ち帰り自宅で工作を楽しんで下さい。

[野鳥の巣箱]鳥の種類毎に穴の大きさを考えないといけないと思われるでしょうが、巣箱は云わば建売物件・中古物件、でそれほど厳しい条件は付けなようです。

数年前、古くからの友人の自動車整備工場のフォークリフトのダッシュボードにセグロセキレイが営巣し、商売道具が数ヶ月間使用出来なかったことが有ります。屋外の鉄板作りですから、さぞや暑さ寒さは厳しかったと思います。(朝日新聞へ投稿掲載)

今回の巣箱の出入り口の穴は小さめの鳥用にしています。穴のサイズ・木に掛ける高さや向き、等に付いては自分で調べて下さい。穴はナイフ・棒やすり・紙やすり等で、家の屋根や軒下良く見かける鳥に合わせて下さい。建築費・賃貸料無料ですからサブローン焦げ付きの問題も起こりません。

例:スズメ、ムクドリ、セグロセキレイ、等、近くで子育てを見かける種類を想定して下さい。

もうすぐ雛のお世話をする親子連れの小鳥を見かける季節ですが、今掛けておくと来年の早春までに、小鳥も見慣れて営巣しやすいかと思います。

スティックトンボに付いては、竹を削って作る竹とんぼと共に、続編(その2)にて・・・

表 題 [鳥の巣箱とスティックトンボ(その2)]

投 稿 日[20080527]

彦根市 加固啓英

前回の(その1)での巣箱についての説明不足を補足させて頂きます。

巣箱へ営巣する確立は低らしく、空室は覚悟して下さい。建築費、賃貸料、収入は目的にないのでサブローン問題の心配もないと思います。

又、同じ個体が次の年も同じ巣を使うことも稀で、前年の巣材の中には羽毛や皮膚を食

うダニ類やクモ類が住み着きますので雛の巣立ちを確認の後に十分に水洗して掛けなおして下さい。

おぼろげな記憶ですが、ワシタカ類の毎年同じ巣に営巣する種では古巣の上に葉の付いた針葉樹の枝を上乗せすると聞いたように思います。

* 学芸員の亀田さんにコメントがいただけましたら有り難いのですが・・・

来年の春に首尾よく営巣された巣箱の方には巣箱での子育ての結果の「掲示板」で紹介をお願いします。

次にスティックトンボと、おまけに竹を削って作る竹トンボについて・・・

これは空力理論やヘリコプターの飛行原理や操縦法との共通問題等、一度作ると深みにはまる惧れがあります。

先ずは質問から(低学年の学童も対象)

1. 重心と中心の違いは説明出来ますか？

2. 定規等の道具を使わず棒状の物の[重心]の位置を見つけられますか？

* 新聞紙を筒状に巻き、一端を重くした物で色々と試行錯誤して下さい。

3. 重心の右側と左側の重さは常に同じでしょうか？

* 初めに理論的に良く考え、質問2. で作った紙筒を重心の位置で2つに切り、キッチンスケールで量って確かめて下さい。ヒントは挺子(てこ)の原理です。

4. スティックトンボや竹トンボ、(以下竹トンボ類)には正確な位置に軸を付ける穴が必要で。

定規等の道具を使わず、身近な物を使って[中心]の位置を見つけられますか？

5. 普通のヘリコプターにはプロペラはいくつ付いていますか？

6. 竹トンボ類を前方に飛ばすと必ず円を描いて戻る方向に「進みます。

何故でしょうか？

7. 本物のヘリコプターが水平方向に飛ぶ時、上の大きな回転翼は、羽ばたく様に一回転する間に迎え角(ピッチ)を変えています。なぜでしょうか？

* 琵琶湖博物館の近くに風力発電風車が有りますが、止まっている時と廻っている時の迎え角が違うのが見てとれます。止まっている時は最も空気抵抗の少ないピッチで、これはプロペラ機がエンジントラブルでプロペラを止めて滑空距離を稼いで不時着地点に向かう時のピッチと同じです。

尚、エンジントラブルの発生率はジェットエンジンはレシプロエンジンの約1 / 10だそうです。

8. 遠くを飛ぶ(ほぼ水平方向に見える)ヘリコプターの回転翼の(上から見た)回転方向が見分けられますか？

たかが竹トンボ、されど・・・、問題は答えられましたか？

少々勿体をつけて、答えと竹トンボ類の作り方については次回(その3)にて・・・

表 題 [鳥の巣箱とスティックトンボ(その3)]

投 稿 日[200805228]

彦根市 加固啓英

この稿も一方的に投稿を続けて長丁場に突入。「面白くないから止める！」と思われましたら投稿のアドレスへ一人一票イエローカードを示して下さい。(イエローカードが過半数の85枚になりましたら筆を(？キーボードを)折ります。)

今回は前回の質問の答えから。(低学年の学童も対象ですから、大人には解りきった物もあります。)

1. 「重心」は重さの「中心」、「中心」は物差しで測れる「形の中心」です。
2. 左右の人差し指を30cm程の間隔に並べて、遠くの物を指差すように前に差し出して下さい。その上に重心を測ろうとする物を、ほぼ水平に載せて、両手の指をゆっくりと近寄せて下さい。

両手の指が触れても測ろうとする物は落ちない筈です。その指が触れた位置の上が「重心」です。

3. 梃子(てこ)の原理で三角コーン状の物を測ることを考えてみましょう。
先端の尖った細い部分と基部の太い部分では、支点から遠くの力点に大きな重量配分を持つ基部に支点が寄り、支点から遠くが細い先の側の力点には大きな配分にはなりません。その結果太い側の方が軽い筈です。
4. スティックの上から要らない紙を乗せ、スティックの両端の上から指で押し付け、紙に跡を付けます。

その紙の両端の跡をそろえて正確に二つ折りにすると中心穴の位置のを示す物差しとなります。

- * どうしても誤差が出易いので、穴の位置はスティックの両端から測り、づれて2点となった時はその中心に穴を開けて下さい。
5. ヘリコプターの上で廻っている大きいのは「メインローター」後端に横向きに付いているのが「サブローター」で「プロペラ(推進させる物)」は有りません。

メインローターの働きは、揚力による上下動と機体ごと傾けた方向への推進です。前進は機首を下げ後退は機首を上げ、左右も機体を傾けることで操縦します。

サブローターの働きは大きなメインローターの反作用を打ち消すことと機首の向きを変えることです。

- * ヘリコプターの事故の原因の一つに「ロス オブ テールローター イフェクト」があります。
主に山間部などの気流の不規則な場所での飛行中、メインローターの反作用を打ち消すべく機体の後端を横に押す筈のサブローターの横向きの気流がサブローターの上流側に回りこみ、サブローターを中心とした渦となって、その効果を殺してしまい、コントロー不能な機体の旋回となるのです。

6. 竹トンボに限らず、回転で揚力を得るものに共通ですが、(フリスビーには揚力を作る構造は無さそうです)物が前に進む時には、その物は前方から風を受け続けている筈です、ですから回転する物では前に振り出される側が対気速度が大きくなり、反対側では小さくなる筈です。

(上から見て「の」野字回りなら左側が対気速度・従って揚力也大。)

もしヘリコプターのメインローターの一回転中にピッチを羽ばたくように変えないと左右の揚力の差で機体をひっくり返す方向の力が発生するのです。

7. メインローターの「迎え角」により遠くに回り去る側は上からの光で明るい上面、回りこんで来る側は暗い下面です。結果「の」の字回りですとローターシャフトの右側が暗い筈です。

前回、「次回からは作り方」と書いたのですが、今回は紙面オーバーですので「作り方」は次回に持ち越すとさせていただきます。

FR まつりでブラックバスを食べました

草津 家猫

外来魚駆除の一助になればと思い、皆様に食し方を紹介します。

表面に塩をたっぷりまぶして、30分網の上に放置し、臭みを抜く。

皮をはがします、身は氷水で冷やします。

この魚体は、まな板からはみ出す大きさで、骨も太く、三枚おろしにするのも大変でした。

皆でブラックバスの刺身を食しました。

見た目は、鯛の刺身で、食感は河豚、味は脂ののったハマチです。

骨についた身は、一度茹でて水洗いし、クセ、や臭みを抜き、砂糖・みりん・醤油で煮ました。

ブラックバスは、スズキ科の一種で白身です、ムニエルやフライにしてもよいでしょう。

琵琶湖博物館のレストランでも、フィッシュバーガーが楽しめます。

魚嫌いの方も食してくださり、新たな需要が開拓できたようです。



フィールド・レポーター8月・9月・10月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
8月 2日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
8月 9日(土) 未定	アキアカネマーキング調査	びわ湖バレイ
8月16日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
8月30日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
9月 6日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
9月20日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
10月 4日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
10月18日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室

（おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。）

（フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて）

今回は新しくフィールドレポーター担当になりました楊平学芸員から原稿をいただきました。前畑学芸員と中藤学芸員と共に定例会に参加されており、フィールドレポーターもにぎやかになりました。皆さんも博物館に訪れた際には、是非定例会に顔を見せにお越し下さい。

そろそろ夏休みになりますが、おでかけの予定は立てられましたか？私は予定が無いものの、夏祭りや花火大会を楽しみにしています。滋賀県は、地域ごとに夏祭りや花火大会が多いですね。私のお気に入りには琵琶湖湖岸で行なわれる花火大会です。見える範囲が広くて、湖に映る花火が綺麗で得した気分になります。琵琶湖があって良かったな～と思える瞬間です。皆さんのおすすめのお祭りがあれば、是非教えてください。

（担当 FRS山中佐紀子）



アカトンボのふる里さがし

アカトンボの一種、アキアカネは6月下旬に里の田んぼなどでヤゴから成虫になり、梅雨も明けて暑さが厳しくなる7月から8月にかけて、気温の低い近くの山の山頂付近ですごし、秋になると再び里に下りてきて産卵して一生を終えます。

彼らの避暑旅行は半径約50Kmに及ぶことが、三重県“ございしょ自然学校”の御在所岳でのマーキング調査で明らかにされています。

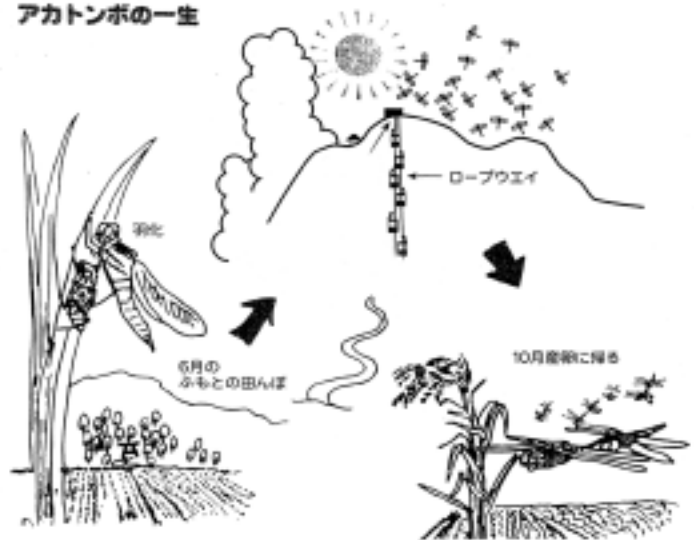
夏のびわ湖バレー蓬莱山山頂では、毎年アキアカネの乱舞が見られますが、彼らはどこから来たのでしょうか？ そして、どこへ帰って行くのでしょうか？

蓬莱山のアキアカネの羽にマークして、調べてみませんか。

フィールドレポーターでは、8月9日(土)にびわ湖バレー山頂付近で、アキアカネのマーキング調査を計画しています。実施計画の詳細が決まりましたら、後日お知らせいたします。

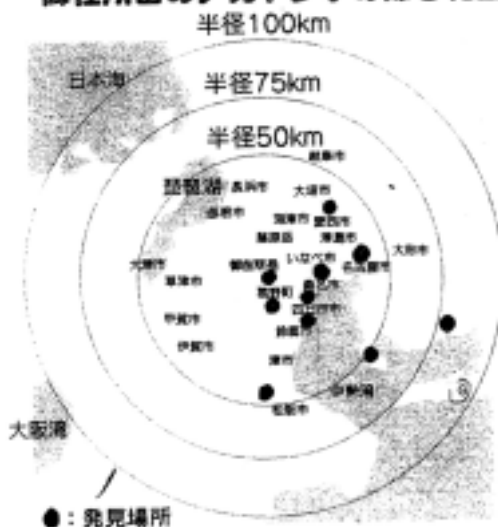
夏休み中の野外活動として、ご家族で参加してみませんか。

アカトンボの一生

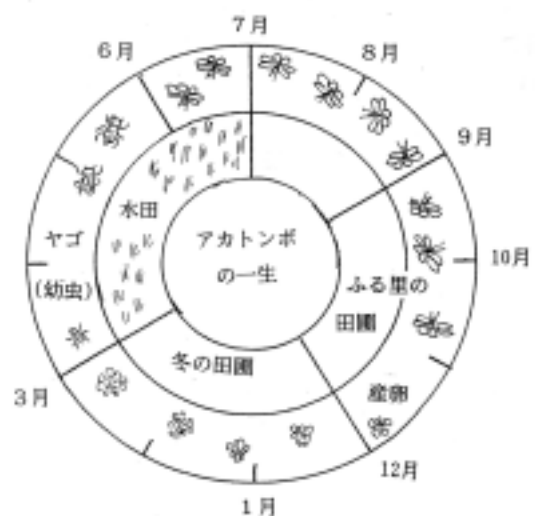


アキアカネは夏になると涼しい山頂に集まる。

御在所岳のアカトンボの帰る範囲



御在所岳のアカトンボの行動範囲
(ございしょ自然学校)



アキアカネの生活史

フィールドレポーター・スタッフ(森)

掲 示 板



2008年度 第4号(9月) 通巻第52号

特定外来生物 オオカワヂシャ

研究発表会へのご参加を！

この暑かった夏、皆様、いかがお過ごしでしたでしょうか。新聞によれば、滋賀県では気温が30℃をこえた夏日が40日間、このうち35℃を超えた真夏日が10-11日間あったそうです。寒い冬と暑い夏、どちらがお好きでしょうか？ 私はといいますと、夏のほうが好きです。

さて、本年度の琵琶湖博物館研究発表会のご案内をいたします。今年の発表会は、来る10月5日(日)に「琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見る」と題して、当館ホールにて行なわれます。開催趣旨は、以下のとおりです。

琵琶湖まわりには、広大な水田が広がっています。ここには、網目のように水路がはりめぐらされ、かつては田植えのころになると琵琶湖から水路を通じてフナやナマズが水田へとのぼって産卵していました。圃場整備が進んだ今では、水路と水田との落差が大きくなり、魚が水田へ入れなくなりつつあります。それでも、今なお、田植えのころに雨がふると、フナやナマズが産卵のために水田めざしてのぼってくるのです。

琵琶湖博物館では、滋賀県水産試験場、滋賀県農業技術振興センターなどと共同して、2006年度から「湖に隣接する水田地帯の特性の解明」と題した総合研究を行っています。ここでは、琵琶湖を代表する魚の一つであるニゴロブナを通じて、湖畔にある水田を生き物と人とのかかわりから明らかにすることをめざしています。

今回は、中間発表として過去2か年の調査で明らかにされたニゴロブナをめぐる水田、水路、琵琶湖に関わるいくつかの知見、そして人の水田利用にかかわる特徴的な事例を紹介し、琵琶湖畔の水田をあらためて見直します。

なお、本発表会の流れは、ニゴロブナの各成長段階におけるフナ自身とそのまわりの環境に起こることを中心に展開する予定です。

実をもうしますと、この総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明」は、私が研究代表者となっています。今回は、研究開始から2年目ですので、まだ成果は十分あがっているとはいえませんが、中間発表の形でこれまでの研究からみえてきたことを中心に紹介し、皆様からいろいろご意見をいただけたらとの思いで行うものです。

フィールドレポーターの皆さま方、是非ともご参加くださいませ！！

多数のご参加をお待ちいたします。

(フィールドレポーター担当 前畑政善)

「みちしるべ」調査 中間報告(2008年9月10日現在)

FRS 浅井良英

「みちしるべ」調査は、8月31日をもって調査終了しました。下記の通り多くのFRが参加され、また多くの貴重な調査報告が届けられました。ご苦労様でした。現在、スタッフで調査結果の集計とまとめを行っており、10月末にはFRの皆さんへの報告を予定しています。なお、今後も新しい「みちしるべ」を発見されたときは、是非、お知らせください(出かけるときに、ちょっと注意すると、また見つかるかもしれませんね)。

□概要

- ・調査期間: 2008年5月中旬から8月末まで
- ・調査報告件数: 317件(一人での最多報告件数は、なんと109件)
- ・「みちしるべ」件数: 集計中
同一「みちしるべ」に対して複数の調査報告がある場合は「みちしるべ」件数としては1件とする。また「みちしるべ」の対象外のものについても件数から除いた。なお、約25%の調査報告が同一の「みちしるべ」です。
- ・調査報告者数: 26人
- ・調査地域(順不同、市町村域):
大津市、草津市、守山市、野洲市、竜王町、安土町、栗東市、愛荘町、高月町、甲賀市、米原市、湖北町、長浜市、高島市、湖南市、彦根市、湖北町、木ノ本町、八日市市、近江八幡市、東近江市

□まとめの方針

- ・調査項目の統計数値的なまとめ(下記に例を掲載)
- ・文化財としての「みちしるべ」: 分類、年代、形、大きさ、材質
- ・交通情報資料としての「みちしるべ」: 行き先、設置場所、方向、距離、移設有無
- ・生活情報資料としての「みちしるべ」: 設置者、動機
- ・文字情報資料としての「みちしるべ」: 文面そのもの

□「みちしるべ」に対する思いなど(報告書へ、全て転記掲載する)

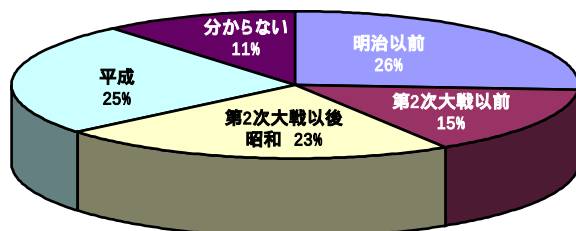
・昔日の旅人の心情、街道のにぎわい、旅の苦労などに思いをはせた人。子供の頃に通った懐かしい道を思い出した人。これまで単なる路傍の石だった石道標が、この調査で大切な文化財だと気づいた人。そして多くの人々が「みちしるべ」調査を通して、わが町の歴史や文化を見直されたようです。

・「みちしるべ」の現状については、当局に保存・修復の要望が、また現代版「みちしるべ」に対する提言(概観の改善)や要望(地図の改善)などが寄せられています。

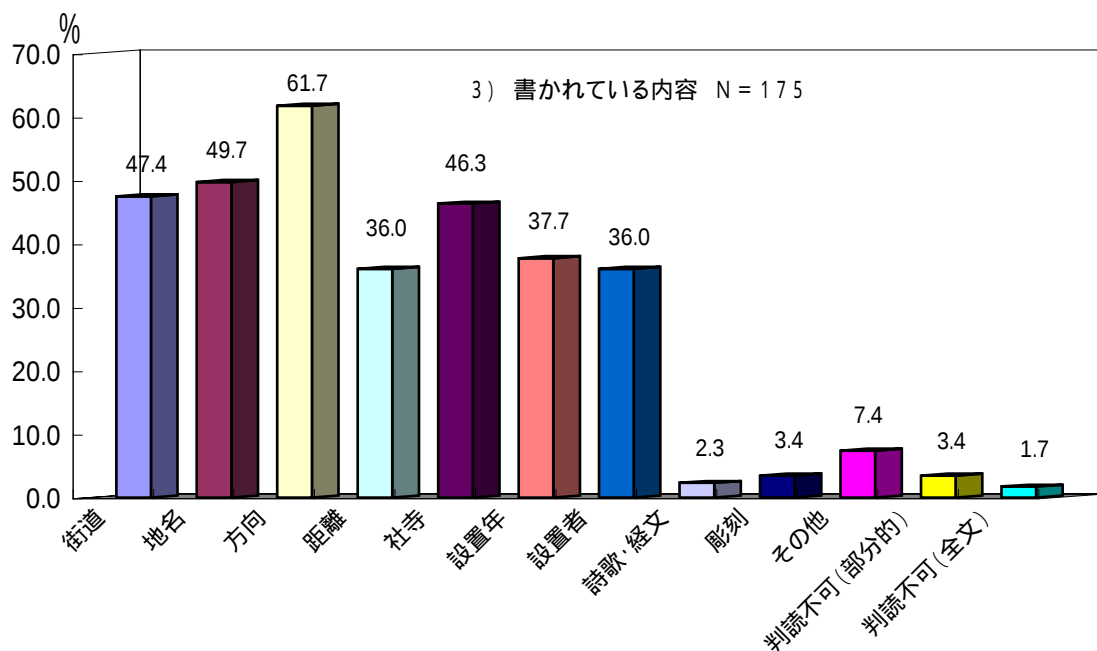
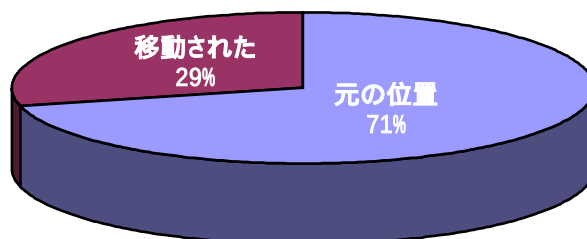
・多くのFRがこの「みちしるべ」調査そのものを楽しみ、達成感を味ったとコメントされていることが特筆されます。

□ 調査項目の統計数値（皆さんで、考えてみてください）

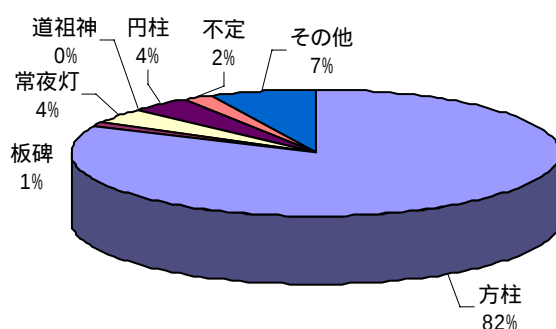
1) いつごろ設置されたか N = 175



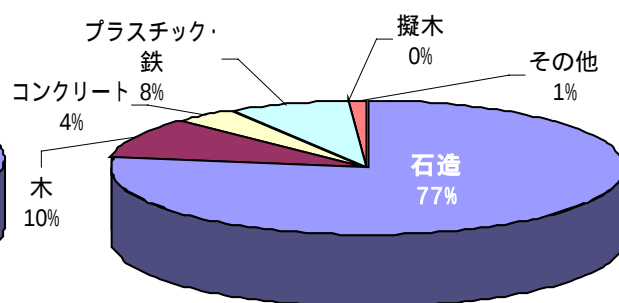
2) 元の位置から移動されたか N=175



4) 本体の形 N = 175



5) 材質は N = 175



琵琶湖の魚を楽しみました

草津 家猫

ファールルの「昆虫記」刊行100年を記念して琵琶湖博物館で開かれた、日仏共同企画展、「ファールルにまなぶ」の関連イベントが、日仏友好150年ファールル100年記念シンポジウムとして7月20日に開催されました。

シンポジウムの後の懇親会では、鮎寿司・ピワマスの香草焼き・鯰の刺身・鰻蒲焼きと錦糸卵のごはん・雑魚豆や稚鮎の佃煮・モロコの天ぷら・オオクチバスの薄づくり・バスを蒸してクリームソースかけ・ハスの塩焼き・ウツセミカジカの燻製などなどを、たっぷり賞味させて頂きました。

後で、ハスは雌よりも大きな雄の方が美味しいと聞いて一寸残念な思いも。

また、湖国の銘酒を象鼻杯(蓮の葉に楊枝で穴を開けて茎を通して飲酒)で飲みました。思ったほどには蓮の香りはなく、いろいろ面白い体験をしました。

出席されていたフランス国立自然史博物館の方から、フランス全土に野鳥調査員がいて、調査結果はネットで報告があり集計しやすいと聞きました。



天蚕「繭」の中、変態

幼虫が美しい繭を巻いたあと蛾となって繭からでてくる間、その変体は通常観察不可能です。今回の天蚕飼育では色んな体験をしましたが、そんな中から繭の中の変態を推測できる事実が観察できました。いずれも蛾に羽化する前に死亡したものを調査対象としています。



幼虫と繭・・・本来幼虫は繭を巻いて蛾になっていくのですが、今回1頭が繭を巻いたつもりで、繭籠り状態に入りました。

間もなく幼虫は蛹に変態するため脱皮しました。今まであった手足、頭、口など全て脱ぎ捨て芋虫状態です。



脱皮した幼虫時代の抜け殻。
(掴んだら放さない手、鋭い歯をもつ口など印象的)

幼虫から蛹に脱皮する途中(繭の中で死亡)背の皮から順に開いて脱皮するようです。



蛹から羽化して蛾になる寸前(繭の中で死亡)羽根が生えかけている。



繭を巻かずに蛹になり、当初触ると動いていましたが、1ヶ月以上経過、死んでいるので開腹する。腹部には水分が多くドロドロした様子で雌雄判別不可。



頭部から腹部にかけて:成虫の蛾を判別するものなし、600mほどの繭の糸はどこに行ったのでしょうか？

完



アキアカネの標識調査

2008年9月10日

守山市 浅井良英

□アキアカネの避暑旅行

アキアカネの標識(マーキング)調査がびわ湖バレイでありました。アキアカネはアカトンボと通称しますが、アカトンボというトンボはいません。これはグループの名称で、その仲間にアキアカネ、ナツアカネ、ミヤマアカネなど約30種が確認されています。アキアカネは初夏に水田などでヤゴから成虫になり、里が暑くなってくると涼しい高原や山へ移動します。そして秋になり気温が下がってくると、もとの里にもどって一生を終えます(1)。だから、今後は「アカトンボが飛び交い、秋も深まってきました」などと言わないようにしましょう。すでに初夏には元気に活動しているのですから。

暑くなると避暑地に出かけるのは人間とにしていますが、アキアカネは休暇届を出す必要はありません。びわ湖バレイ(標高1174mの蓬莱山を中心とし、冬はスキー場になる)は手ごろな高さで里にも近いので、アキアカネには絶好の避暑地らしく、各地からやってきた多くの仲間が飛び交っています。「どこから来たのですか？」と聞いてみても答えてくれません。そこで、彼らにとってはよけいな世話なのですが、各地でアキアカネのふる里さがしが行われています。捕まえたアキアカネの翅(はね)にマーキングして、秋になって里を飛んでいるアキアカネを捕まえて、マーキングの有無を調べます。これまでの調査では、三重県の御在所山(ございしょやま)のアキアカネが50Km もはなれた琵琶湖周辺で見つかっています。あの小さな体で、遠くまで避暑旅行に出かけるのですね。夏の琵琶湖周辺には人間があふれるので、できるだけ遠くへ逃避行するのもかもしれません。

(1)最近の研究では、このような避暑旅行については疑問視されていて、再検討が必要なようです(新井 裕『トンボの不思議』どうぶつ社 2001年)。



アキアカネ

これはまだ成熟していないオス。成熟すると腹部が赤くなる(翅の斑点が雌雄の識別標)。

大人も子供も、網をもって夢中に走り回る。

□アキアカネを追いかけて・・・

アキアカネの標識調査とともに、アサギマダラの調査(2、伊丹市昆虫館主催)も行われ、多くの子供たちが参加して、なかなかの盛況でした。このような標識調査では専門家や素人、大人や子供の区別がなく、誰もが無心にトンボやチョウを追いかけて走りまわっています。捕まえてマークすると、元気で遠くまで飛んで行ってくれよと励ましながら手から放します。山上にひろがる草原をやわらかな風が吹き渡り、眼下には雄大な琵琶湖がひろがり、トンボを追いかけていると、思わず琵琶湖にダイブするような錯覚を覚えます。またアサギマダラを求めて林の中に分け入ると、そこは冷んやりとした緑陰。中天の太陽もあまり気にならない、爽快なひと時でした。当初のマーキング目標数には及びませんでした。ワクワクする時間を過ごしました。

(2)アサギマダラは“海を渡る蝶”として知られていますが、その飛翔ルートなどは謎が多く、国際ネットワークを組んで継続調査が進められている。

□トンボはいつ頃から意識されたのだろうか？

弥生時代中期(2000年から2300年前)の近畿から東海地方において銅鐸が盛んに作られ、1800年前頃には急に消滅します。滋賀県野洲市の大岩古墳群では多くの銅鐸が出土し、135cmという日本最大のものもあります。この銅鐸の目的についてはいくつかの考えがありますが、その一つに農耕の祭祀具(さいしぐ:祭りの道具)として使われたという考えがあります。その根拠となった銅鐸が写真のものです。銅鐸の身部を六区画に分けて、そこには男女が脱穀している図があり、さらにスッポン、カマキリ、そしてトンボなどが描かれています(左上の区画がトンボ)。トンボが祭祀の場に登場するということは、この時代の人にとってトンボはごく身近な生物だったということでしょうか。



袈裟襷文銅鐸(弥生時代中期、伝香川県出土、東京国立博物館蔵)

左上の区画にはトンボが描かれている。

天蚕飼育 フロアトークを省みて

4月29日よりオープンした「ファールにまなぶ」展にフィールドレポーターのスタッフたちも天蚕の飼育で参加することになりました。

信州大学から分けていただいた天蚕の卵を各自家に持ち帰り、エサ集めの段階から手探りの飼育。スタッフがそれぞれの飼育状況をメールで連絡しあい、飼育情報を共有しながらの目を放せない日々のスタートです。

卵から孵り一ヶ月、幼虫の生態にも少し理解できるようになった頃、展示コーナーでフロアトークを実施することになったのですが……。

最初は「こんな中途半端な知識で詳しい説明を求められたらどう対処すればよいのか？」と大いに悩みながら説明に及んだのですが、館内放送の呼びかけに反応してフロアトークに来てくださる来館者は意外と少なく、天蚕の展示コーナー近くに居られる来館者の方々にアットホーム的雰囲気話しかけ、天蚕と普通の蚕の違い、育て方の話、卵から孵った幼虫の写真なども利用して説明しました。



【孵化したばかりの幼虫を写真で説明する筆者】

年配の方では昔蚕を飼育して繭を採り、その時の苦労話などお聞かせ下さいました。また子供たちは蝶と蛾の違いや、幼虫のえさの話、成虫になった蛾の質問などがありました。また後半のフロアトークでは、グリーン色の繭や、羽化した蛾を展示、ペアリングの難しさを説明に加えました。

この展示コーナーは飼育ケースの中でグリーン色をした幼虫、そのえさを食べている様子など生きた幼虫を直接見ることが出来、また7月に入ると、繭や天蚕蛾も展示に加わりこの展示コーナーを訪れた人は、ほとんど展示ケースを覗き込まれ、私たちの話を理解して下さいました。

本来ファールが研究した天蚕の性フェロモンについても、生きた標本(♂ ♀)があるので、おおいに興味を持っていただけたと思います。

最後につたない説明にお付き合いくださった来館者のみな様に御礼申し上げます。

ありがとうございました。

投稿日 2008.8月30日

草津市 梶島昭紘

ボタンウキクサが展示販売されています。

韓国駐在して、9か月になりました。韓国内旅行もするようにして楽しむようにしています。5月の連休に済州島に旅行しました。世界自然遺産の「万丈窟」の溶岩洞窟や、世界的にも珍しいという樹齢500～800年の榧(カヤ)の巨木2,800余本が群生する原生林の「榧子林」、島の南側では、海に直接落下する滝や海岸など見物しました。

南側の観光団地にある熱帯植物園に立ち寄った時にボタンウキクサ(Pistia)が展示してありましたので、特に珍しくもないでしょうが写真を撮りました。また、栽培方法を丁寧に説明してありました。日本でも以前にはこのようにして輸入されたて広がってきたのでしょうか。私の住んでいる亀尾市の池や川では上から覗いて見る限りは見かけることはありません。冬の1月～2月の朝の気温は氷点下が続きますので広がらないのだろうと思っています。川には見かけないですが、観葉植物としてお店で販売しています。そして商店街の通り道に金魚鉢が置いてあって、その中を覗くとボタンウキクサが入っていました。所変われば扱われ方も違いますね。



(説明文を訳してみました)

「特徴」; 金魚鉢や池に浮かべて鑑賞する観葉植物。 水に浮かんで四方に手が伸びる多年生植物。 根は長く羽毛模様に育って垂れる。

「栽培方法」; 半陰でよく育つ。20℃で冬越しが可能であり、25～30℃でよく育つ。

植木鉢培養土に根先部分だけ付けて、植物の本体は水表面に浮かべる。畑土、腐葉、砂を5:3:2の割合で混合して栽培する。



カヤの原生林

「榧子林」



樹齢 818 年巨木
(これは、借用写真です)

投稿日 2008.7.13

草津市 梶島昭紘

梅雨(チャンマ)の季節になりました

韓国も、湿度が80%位の蒸し暑い梅雨の季節になりました。6月20日頃でしたが、梅雨入りしたと発表されました。まだ、激しい雨は降りませんが、すっきり晴れる日が少なく、外を歩いても汗ばんで気持ちが悪く、不快な季節です。この頃は滋賀県とよく似たような気候です。

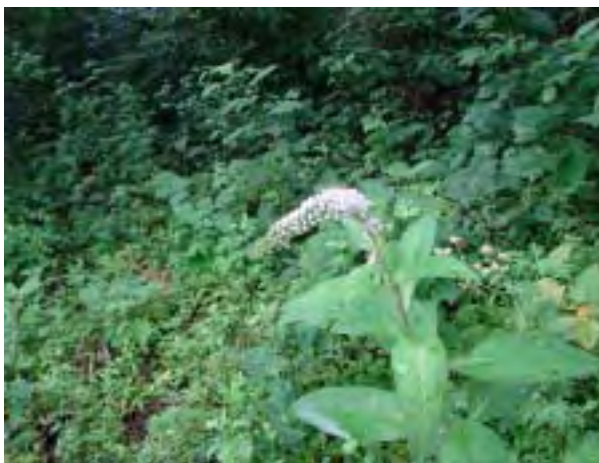
休日に時間を作って近くの山(約300m)に登るのが楽しみです。雨は6月末頃は継続して降りませんでしたが、夕立ちが時々ありますので、植物は生き生きとして、みずみずしい山道です。道沿いの草花や木々に咲いている花、木の実を見たり、鳥や、昆虫を見たりと道草をしながら登ります。草津市周辺の野山に咲いている草花にほとんどは似ています。でも少し違うというような草花もありますが、山道の途中の空地に山菜を植えている場所があって、早春には収穫されています。その周りには、時々園芸品種らしい花が咲いているので、野生では無いのかもしれませんが。まあ、種類を想像しながら楽しんでいます。



4月末 樹林群生 チゴユリ



6月初 山道谷沿い ???



6月初 山道谷沿い オカトラノオ



6月中旬 公園道 ヤマボウシ

フィールド・レポーター 10月～2009 / 1月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
10月11日(土) 13:30～17:00	定例会: 対外活動準備	博物館交流室
10月25日(土) 10:30～17:00	レポーター便り印刷・発送	博物館交流室
11月 8日(土) 9:30～17:00	第9回パワフル交流・市民の日	草津市役所庁舎他
11月15～16日 9:30～17:00	かんさい自然フェスタ 2008	大阪市立自然史博物館
12月 6日(土) 13:30～17:00	定例会: 次回調査テーマ検討	博物館交流室
12月13日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
1月17日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
1月31日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室

(おこわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

暑かった夏もようやく終わり、騒がしかったクマゼミやアブラゼミノたちに代わって、夜になるとアオマツムシの鳴声がせわしく聞こえてくるような季節になりました。 まもなく、たんぼの畔に彼岸花も咲き始めることと思われます。

11月になりますと、草津市の「パワフル交流・市民の日」、大阪市立自然史博物館における「かんさい自然フェスタ 2008」が開催されます。 いずれのイベントにも、琵琶湖博物館フィールドレポーターとしての参加を予定しております。 多数のレポーターの皆さんのご参加をお願い致します。 かんさい自然フェスタでは、昨年行なった「ボタンウキクサ調査」の結果を口頭発表する予定にしております。 両イベントについての、詳細については、後日お知らせする予定にしております。

ところで、当掲示板の編集長の山中さんが、近々ご結婚されます。 おめでとうございます。 人生での3大イベントの一つである結婚式を間近にひかえ、何かとご多忙の日々を過ごされております。

というわけで、今回は編集長のピンチヒッターを勤めさせて頂きました。 紙面が見にくいかもしれませんが、ご勘弁下さい。

(担当 FRS 森 擴之)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物 1091
TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
E-mail: freporter@lbn.go.jp

フィールドレポーター

掲 示 板

2008年度 第5号(1月) 通巻第53号



ルーブル美術館 新婚旅行にて

本年もよろしくお願いします！！

フィールドレポーターの皆さま、本年もよろしくお願いします。

昨年は、印刷物として「掲示板」と「レポーターだより」の発行、野外活動では伊丹市昆虫館との共催でびわ湖バレイにおいての「アサギマダラの標識調査」と今年初めての試みである「アカトンボのふるさと探し」、そして、催し物では「草津パワフル交流・市民の日」(11月8日)、「かんさい自然フェスタ」(11月15～16日)、「琵琶湖まるエコDAY2005」(11月28日)、博物館展示室の「展示替え」、などなど盛りだくさんの事業がありました。何かとお忙しい中、これらの事業に参加されたレポーターの皆様、そして、これらの事業を次々と推進していただいたスタッフの皆様、ありがとうございました。

フィールドレポーター制度への参加者数は、これまで120～130名と停滞気味でしたが、昨年は、おかげさまで150余名に達しました。また、「ボタンウキクサ分布調査」と「アカトンボのふるさと探し」の2件が、昨年はマスコミでも取り上げられました。(本年は、早速、食の調査も！)

何かと世知辛くなりつつある昨今です。フィールドレポーターのアンケート調査や各種事業を通して、明るい話題を発信していきたいと考えています。
本年もご協力のほどよろしくお願いします。

(フィールドレポーター担当 前畑政善)

目次

1	: 本年もよろしくお願いします！	前畑 学芸員
2	: ボタンウキクサの分布地のその後	前田 雅子
4	: サギ三態	浅井 良英
6	: またタンボボ調査をします	布谷 知夫
7	: オオミノガ定点観測 3	森 擴之
8	: “食の調査お願い”あれこれ	津田 國史
9	: 「アイス・エイジ」 主役ドングリの種類を愚考する！	多胡 好武
10	: 旧草津川の長堤切断の砂層の歴史	久保 穂子
11	: 駆け巡り大阪市立自然史博物館	草津 家猫
12	: [危険が一杯]	加固 啓英
14	: 韓国開催、ラムサール会議の開催地の様子など(韓国通信)	椋島 昭紘
15	: おしらせ	

ボタンウキクサ分布地の その後



2008 年 10 月に、徳島県吉野川河口で大繁殖するボタンウキクサが話題になりました。フィールドレポーター調査で見つかった琵琶湖の南湖東岸のボタンウキクサは、その後どんな状況にあるでしょう？ 越冬株の除去は 2008 年の分布減少に効いたでしょうか？ フィールドレポーター・スタッフが 2007 年調査の分布地を継続観察したので、お知らせします。

観察地点と観察日

- ・宮川池（2007 年分布の最上流地点。2007 年 1 月末に生息株を除去）
6/23～10/25 の期間に 5 回と、12/18 に観察。
- ・江西川中流地点（2008 年 4 月に 30 株余りの越冬株を除去）
6/4、6/23、9/6、9/27、10/11、10/25、12/18 に観察。
- ・法竜川河口～周辺の内湖～赤野井湾にかけて（2007 年分布の中心地）
5 月～12 月に 11 回以上観察。
- ・新守山川河口
8 月～10 月と、12/18 に観察。
- ・烏丸半島北側の赤野井湾湖岸
9 月～10 月に 3 回と、12/18 に観察。
- ・草津市志那町の湖岸
9 月と 10 月、12/18 の計 3 回観察。

湖岸でも、内陸の越冬地でも、新たな出現なし

観察の結果、どの地点でもボタンウキクサは全く確認されませんでした。湖岸周辺では 2005 年以降に毎年出現していたので、これは大きな変化です。

湖岸周辺で確認されなかったのは越冬できなかったためと考えられます。植物帯や護岸に紛れ込んで越冬する株もなかったようです。一方、越冬株を除去した江西川と宮川池で新たな生息確認がなかったのは、除去が功を奏し、元を断つことができたからでしょう。ボタンウキクサの緑色を識別しやすい冬枯れ時期に除去作業をしたことで、植物帯に紛れ込む小さな株を確実にピックアップできたと思います。

これらのことから、ボタンウキクサはもともと湖岸で越冬していなかったが、宮川池や江西川で越冬した株が流下し、水流の緩い湖岸周辺で繁殖するために、2、3 年連続して出現したと考えます。出現時期が例年秋から冬にかけてと遅かったのは、おそらく越冬地からゆっくり流下し、秋口に湖岸で増え始めたからでしょう。

越冬株を除去すればボタンウキクサの生息を遮断できそうだとわかりました。実は、株での越冬だけでなく、種子で越冬する可能性もあったのですが、2008 年は種子からの発芽もなかったようで安心しました。けれども博物館の芳賀裕樹さんによれば、種子は数年後に発芽す

ることもあるので、油断できないそうです。

最後に、観察を通しての感想を一つ。多くの地点ではボタンウキクサと置き換わるようにヒシやホテイアオイが一面に繁茂していました。特にホテイアオイは、あちこちで勢力を拡大しているように思います。特定外来種の指定がないだけで問題は同じでは...と、複雑な気持ちでした。

2007 年フィールドレポーター調査の分布地や越冬状況など、結果を簡単に示します。

2007年ボタンウキクサ分布調査結果

琵琶湖周辺域を中心に、県内各地から 219 地点の報告が集まりました。分布は赤野井湾を中心とする琵琶湖の南湖東岸と、それに連なる法竜川水系(法竜川—江西川—宮川池)に限定されました。過去に生息記録がある萩の浜、乙女ヶ池、十ヶ坪沼(以上高島市)、西ノ湖(近江八幡市、安土町)、堅田内湖(大津市)の 5 地点では、分布が確認されませんでした。ボタンウキクサの株は水温 12℃ 以下では枯れるとされ、滋賀県の自然環境では越冬できないことが推察されました。

湖岸周辺の分布地では、ボタンウキクサは 1 月末には枯れて水底に沈みました。けれども江西川では、小型の個体が 4 月まで継続して見られ、越冬が確認されました。工場温排水を水源とする江西川の水温は、厳冬期の 2 月に 15～16℃ あり、越冬を可能にしたようです。また、地下水をポンプアップしている宮川池では、改修工事で水が抜かれる 1 月末まで生息しており、越冬が疑われました。



(文 前田雅子)

サギ三態

2008年12月23日

守山市 浅井良英

□第一態

琵琶湖周辺では多くのサギが見られます。とくにアオサギは大きな体長とその色で目立つ存在です。一年を通して川の浅瀬、田畑、そして湖辺で見かけます。餌を求めて、田畑ではゆっくりと歩き、また水辺では辛抱強く待機しています。このようなイメージを持っていたのですが、先日珍しい光景に出会いました。奈良・平城宮跡の北方にあるコナベ古墳は濠をめぐらした大きな前方後円墳で、この濠にはカモ類を始め多くの水鳥がいます。アオサギも岸辺をゆっくりと歩いていましたが、何を思い立ったのか泳ぎだしたのです(図1下)。アオサギ(だけでなく他のサギ類も)が泳ぐということを知らなかったのが、そこに立ち尽くして眺めていました。ときどき首を水面に突っ込み餌を探っているようでした。5分間位、水上を徘徊していましたが、突然大きくそして力強く羽ばたいたと見るや、水面から直接に飛び立っていきました。考えてみればアオサギが水に浮かんでいても不思議ではないのですが、このような生態は一般的なもののなのでしょうか(亀田さんにお聞きしたいと思います)。

□第二態

近くの小津小学校の後方に欲賀(ほしか)神社があります。子供たちが小学生の頃には境内で一緒にかくれんぼをした懐かしい場所です。この数年の内に神社周辺の宅地開発がすすみ、杜が街区に取り囲まれた状況です。最近では、ここにいろいろなサギがコロニーをつくっています。主としてアオサギ、チュウサギ、コサギが営巣していますが、少数ながら渡りのアマサギもいます。夕刻になると東西南北の各方面から数羽から十数羽の単位で帰ってきます。うす闇らくなった空に編隊を組んで現れるので、映画で見る空襲の場面を想起させ、それは不気味な光景です。そのまま梢にとまるもの、しばらく杜の上空を旋回するもの、また下方から木々の枝にとまるものなど。杜の木々の中に入ってしまったからも落ち着きません。枝が密集した木々の間を、あの体を丸めて、あるいは羽を広げて、大きな体をねじ込むようにして枝から枝へと移



図1 増水の河口にあつまるサギ・カワウ等(上 2004/10/02 旧安曇川町)、水田で漁餌するアオサギ(中 2008/6/07 守山市)、泳ぐアオサギ(2008/11/07 奈良市)

動しています。同じ種が同所に集まるものだと思っていましたが、同じ枝に他種が隣り合っていることもあります。ところどころで威嚇声が聞こえ、落ち着かない様子で近くの枝を行き来しているものもいます。このように今夜の寝場所を確保するために、しばらくの間あちこちで小競り合いが続きます。神社の杜はザワザワとしていますが、やがて場所が定まると、サギたちの寝息が聞こえるくらい杜は静寂につつまれます。

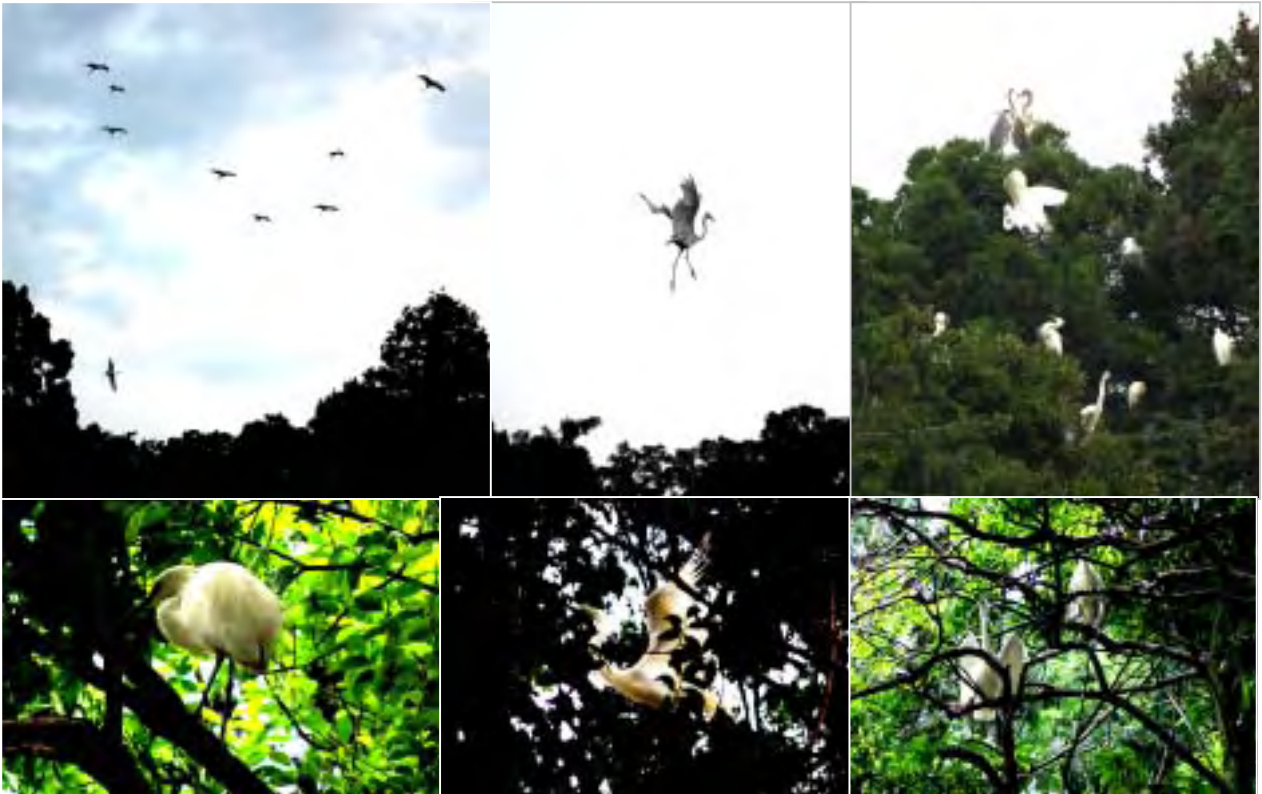


図2 サギの枝わたり：夕刻に帰巢し、木々のなかを移動して自分の寝場所を確保する。(2008/5/30 守山市・欲賀神社)

さて神社の境内ではなにが起こっているのでしょうか。本殿の屋根の一部はサギたちのフンで白くなっています。また参道もフンの道と化しています。なによりも境内一円に異臭が漂っていました。近所の人たちも頭をかかえています。やがてカワウに苦慮する竹生島や伊崎半島のような道を歩むのでしょうか。

□ 第三態

これまでもその存在が確認されていましたが、21世紀になってから特に活発化した種にフリコメサギ、オレオレサギ、ギョウジサギなどがいます。これらは詐偽種の仲間ですがその生態が解明されていませんが、強い繁殖力をもっているようです。善男善女に危害を加えるので国に駆除を求める声もありますが、まず各自で十分な対策をたてておくことが求められます。

【参考文献】 高野伸二編 『日本の野鳥』 山と溪谷社 1985年

またタンポポ調査をします

タンポポ調査 2010・西日本に参加ください

1993 年に琵琶湖博物館の準備室でタンポポ調査をしました。そして 2 回目を 1998 年にも行い、フィールドレポーターの皆さんにも調査に協力をいただいています。

その後、2003 年にも調査をしようと考えていたのですが、中止しました。それは 1990 年代に入って、タンポポの在来種と外来種との間で、雑種があることが分かったためです。

大阪府下でこれまで 1975 年から 5 年おきに調査を行っていた大阪自然環境保全協会は、この雑種問題をどう扱うかを迷って、それを考える相談の場を作りました。布谷はその相談の中で、雑種があることを前提として、雑種を区別しながら調査をすることを提案し、同時に、これまでタンポポ調査をしたことがあるグループや団体に呼びかけて、関西で一斉に、同じ方法で調査をすることを提案しました。こうして 2004 年と 2005 年にタンポポ調査近畿・2005 の調査が行われました。

この調査では、タンポポの総ほう片の形を五つに区別し、またすべての花の花粉を調べ、またサンプル調査で DNA の調査を行うことなどを通して、在来種、外来種、雑種を区分する方法を確立し、2005 年には、3 万点ほどの資料で、タンポポ調査を行うことができました。

この調査方法の確立で、雑種があることを前提にしつつ、過去に調査されたデータとも比較できるようになったのです。

この 2005 年の調査を行っている間に、倍数体の在来種のタンポポの分布について調査を行うために、鳥取県などに遠征し、そちらの植物の専門家から意見を伺う機会がありました。そういう中から、2010 年に再度調査を行うのであれば、いっしょに参加させてほしい、という声があり、結局西日本全体(カンサイタンポポが分布する範囲)で調査を行おうということになりました。すでに昨年の 1 月には実行委員会が動き出し、5 月には西日本実行委員会の設立総会が倉敷で行われました。そして、今年の 4 月から 5 月には、西日本全体での調査が始まることになっています。

滋賀県でも、琵琶湖博物館に滋賀県実行委員会を置き、植物の同好会や県内の博物館などの協力も得ながら準備に入る予定です。2009 年は新しく参加する県があるために、予備調査として行い、2010 年に本調査を行います。

琵琶湖博物館では、タンポポ調査を行うグループを作り、そのグループとして調査の準備をすることを考えています。フィールドレポーターの皆さんの中で関心を持っていただける方がありましたら、ぜひ一緒に調査の準備や解析を行いませんか。

当面の計画

タンポポの勉強会を行います。

日 程： 3 月 15 日 午後 1 時～3 時 30 分

会 場： 琵琶湖博物館会議室

テーマ：「タンポポ調査のこれまでの経過と課題」

(布谷 知夫)

オオミノガ 定点観測 - 3

2009 - 01 - 12

守山市 森 擴之

定 点 : 守山市運動公園南口脇のウバメガシワ

メッシュコード : 5235-4778

2006 年 この地点から5個のオオミノガの糞を採取

一個から雄のミノガが羽化し、残り4個からは、ヤドリバエが羽化した。

2007 年 前年同様5個のオオミノガの糞を採取

4個からヤドリバエが羽化し、残り一個はもぬけの空(脱皮ガラもなし)

2008 年 現時点(2008-06-18)、オオミノガの糞、一つも見られない。

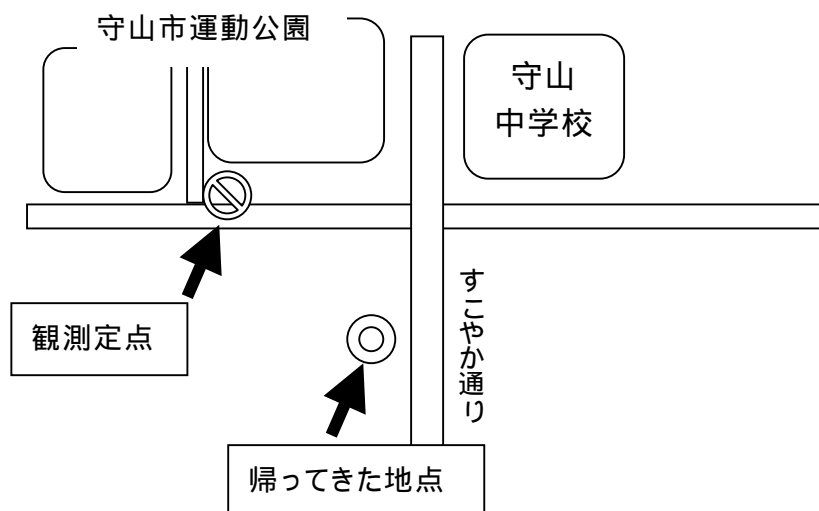


さて、何時になったら、オオミノガが帰ってくるでしょうか！！！！

～ 帰ってきたオオミノガ ～

定点より 20～30m離れた場所のウバメガシワに約 70 頭のオオミノガが帰ってきていました。

2008 年 10 月、20 個の糞をランダムに採取し、プラスチックケースに保管したところ、多数の寄生ハエが羽化。糞を開き寄生状況を調査したところ、採取した 20 個中 19 個にハエの寄生が認められた。残った1個は現在も保存中。



以上

参考 : 掲示板 2008 年度第1号(2月) 通巻第49号 & 2008 年度第3号(7月) 通巻第51号

“食の調査お願い”あれこれ

FRS 津田國史

私たちフィールドレポーターの「年末年始の食」調査の調査票を差し出して知人にお願いした時の反応が面白かった。

なにいっ？と訝しげな人、面白いことやっとるな！と興味を示す人、私の知ってる人にも渡すからと、調査票を望む人など様々な反応があり、お陰で多くの方に調査をお願いすることができた。調査票は最初5～6枚しか持って帰らなかったが、追加して計50枚近く配布したのではなかろうか。

全く事情を知らない方にフィールドレポーターの説明はあまりしなかった。なぜこの調査をするのか、調査の目的と記入法を説明することにして、“あんたの家で正月どんなもん食べやあったんか、これに○して、この封筒に入れてポストに投函してもらえんやと。”

正月の食についてその場で自分の家の食を話される方、うちはあんまりしてへんもんが多いし...とためられる方、頼まれたからにはしょうがないと調査票を丸めて持たれる方など、その反応で記入していただけるかどうかの大体の予測ができた。そこで「しない」「食べない」もとても大事な情報なのでぜひそれを教えてほしい、名前だすの困るなら書かんでもええから、年齢には○付けて、でけたら住所を頼むわと言うと、あんたが言うのならしょうがないなどの面持ちで納得してもらえた。

ある方は滋賀県の食べ物やったら、堀越先生が調べやあったのがあるはずや？と滋賀の食の権威、堀越先生の業績を語ってくれた。でこの方には先生が調べやあってからもう随分日が経ってるので、それがどう変わったのかが知りたいのや、いまの近江の正月の食を調べるのがこの調査なんやと説明したら、とても興味を示してもらえ、この方にはぜひ結果報告をしなければと思い、できればFRに勧誘したくなった。

調査依頼は女性が多かったが、壮年の男性にも訳を話すと納得してもらえ、始めてこの種のアンケートに接することに興味を示してもらえた。親戚の法事の席では坊さんが帰ったあと、正月の食のあれこれですっきり座が盛り上がり、その場で記入してもらえた人もあった。集落の正月の初総会で、出席者を眺めわたし年齢・住人の新旧など均等になるようにして、この人ならと選んでお願いしていると、わしにもくれよと手を出す人もあり、皆さんに承諾してもらえた。

町内の正月粥祝い行事の席では用意した調査票が足りず、翌日その家の郵便受けに入れたり、玄関で渡したりしていた。また親戚への年賀状の末尾に、調査票を送るから記入を頼むと書いたのもあり、用紙を送らねばならない。

調査をお願いして調査票を拒まれたことはなく皆さん納得してもらえ嬉しかった。それぞれにどのように応えてもらえてるか、これから博物館に来る日々が楽しい。

「アイス・エイジ」 主役ドングリの種類を愚考する！

地球温暖化防止をテーマにしたアニメ「アイス・エイジ」及び「アイス・エイジ 2」の主役的存在感があるリス「スクラット」のドングリがテーマです。



約2万年前、温暖化が進む中、ドングリを保存しようと氷の中に埋込むため押込むと、そこから氷りに亀裂が走り、氷河の崩壊が始まるというストーリーですが、そこに登場するのがこのドングリです。

(アイス・エイジのスタート画面)



アニメ原画は掲載できないので、映画を思い出して下さいネ。

さて、このドングリの種類を愚考したいと思いますが
まず特徴として・・・

帽子に当たる殻斗の特徴・・・うろこ模様である

ドングリの形・・・丸く大きい

大きく、うろこ模様のドングリはミズナラ、ナラガシワ、(ナラガシワ・ミズナラ類)(マテバシイ)

マテバシイが該当する。ミズナラ、ナラガシワのドングリは先端の方がずんぐりして尖っていない。

丸く大きなドングリはクヌギ、アベマキ、カシワがあるがこれらは、殻斗のうろこ模様が反り返っている。

そしてこれらは全体に丸く、尖った先端がない。



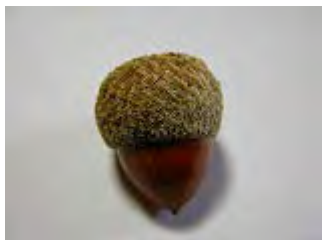
(クヌギ)

(芽生えのアベマキ)

そこで、うろこ模様の殻斗を持つナラガシワの尖った先端を持つマテバシイを合体させればどうなるか？



(ナラガシワの帽子)



(マテバシイ)

左、ナラガシワ+マテバシイのドングリ、右は左にそっくりのアニメの

ドングリです。

ドングリにストラップと目を付けました。

《可愛いでしょう！》



表題【 旧草津川の長堤切断の砂層の歴史 】
 投稿日【 20.12.31 】お名前【 久保穂子 】住所【 草津市 南町 】

草津市内を流れる天井川(旧草津川)の堤防が切断され、市図書館前
 が堤防をぶち切った野村グラウンド、人権センター前が守山市へのハイウェイ
 沿いの新しい道路が開通した。

旧草津川の長堤は400年前、江戸時代には土砂が流れて田より
 高くなった天井川として知られていた。私は切断された堤防
 がどのような断面層で造られていたか、地質学について素人ながら興
 味を持ち見つけた。川の中心の底はH2スタートルなどがあるが、
 砂である。昔から言われているとおり、砂が流れてきて川になった。
 両側の堤防はサクラが植えられ、花見の名所になっていた。なぜ
 ならサクラの古木は決して根を張った堤防をしっかりと固め、堤防は
 洪水でも切れない強さをもっていた。だが、昭和30年ごろまでは
 数回、堤防の一部がきれ、市内は水が氾濫になったという記録も
 ある。切断されたのは一つ所だけ、フロントネル近かったが、七ツツ

へええとあたりで
 うねっているか？
 今度の編み物

あの旧草津川跡
 の変化がわかってきた



←写真は切断中の
 長堤

駆け巡り大阪市立自然史博物館

草津 家猫

大阪市立自然史博物館は、長居陸上競技場の隣にあり、地下鉄御堂筋線「長居」より800メートル程のところにあります。コンクリートジャングルの街区から隔離してくれる楠の茂る公園を抜け、噴水や植物園に囲まれた博物館まで、しばしフィトンチッド・森林浴の雰囲気にはたれてリフレッシュできるのが嬉しかった行き帰りでした。

「関西自然フェスタ2008」が開催中(08/11月15日～16日)は、無料開放されており、館内に入ると大きな鯨の模型が迎えてくれました。長居公園になんで鯨？と思いながら進むと、今度は4メートルもあるワニが壁を這っている……。なんでこんなに水棲生物がとの思いが広がり始めましたが、展示を見ていくにつれようやくそのわけが判り納得しました。

おおむかしの大阪は海だったのです。地下鉄やビル工事の折に、鯨の化石が発掘されることもあると展示が語っていました。地球温暖化が言われているこの頃ですが、その昔、ここをワニが闊歩し、沖では鯨が潮を噴き上げていた時代に思いをめぐらせ、現在とは気候も地盤も違う太古の環境を描いて、彼等をそこに置いていました。

新たになった展示の仕掛けが楽しくて面白く、ボタンを押したりハンドルを回したりとゲーム感覚で操作しているうちに、自然環境や動植物の成長過程や、種の特徴などがしぜんに理解出来る仕組みになっていて、好奇心旺盛、ボタン操作の得意な子供たちは、それぞれ好みの展示のまえて順番待ちをしていました。わたしも里山手入れや、狼と鹿の関係の前などに並び、ハンドルを回して里山環境を、ボタンを押して捕食関係を学習してきました。

《面白かった展示のいろいろ》

- ・ ドングリが新芽を出すまでに、乾燥したり、動物や虫に食われたりなどの障害を、ボールが穴に落ちるゲームで体験できる
- ・ 狸や亀やサギなど、里山での生物の一日を、時間軸で行動軌跡を辿れる
- ・ 人が手入れしなければ荒地に戻る里山の経過を、ハンドル操作で確認できる
- ・ 狼と鹿の捕食関係を、数の変化で追える
- ・ 狸の死骸が骨に化ける過程を記録したビデオ
- ・ 昆虫の見事な擬態のいろいろ
- ・ 恐竜化石や足跡化石のレプリカ
- ・ 長居公園内のセミ抜殻を大袋に詰め、年毎にどかっと展示、大発生の周期ひと目で
- ・ 野菜の原産地を大陸ごとに展示、なじみの野菜がどこ生まれかすぐわかる
- ・ ゴキブリの生態のさまざま

などなど、いろいろ楽しい展示が多いので、じっくり見ていけば理科の教科書よりも早く確実に理解できます。子供も大人も楽しめる展示になっていました。

その着眼点と、それを的確に楽しく提示するユニークさを教えられ、とても参考になる展示物にたくさん出会えた大阪市立自然史博物館駆け巡りでした。

1. 家内と娘が買い込む洗剤・入浴剤・化粧品、等々、妖しげな壺や容器が日増しに増えて行く。老眼鏡とルーペを頼りに内容を調べると、硫黄を含む入浴剤、浴室や風呂釜洗浄の酸素系洗浄剤、塩素系洗浄剤、界面活性剤を多用した化粧品落としやシャンプー、リンス。

これらを安易に化学的経験の無い人が一般家庭で使用すべきだろうか？どれを見ても化学に知識のある者にはかえって躊躇される品揃え。何軒かの家庭の使用後の排水が下水道管の中で混ざれば、危ういバランスで硫化水素、塩素、塩化水素の発生する条件が整ってしまう怖れが有る。出来るだけ一般家庭にはこれらを持込まない様に心掛けて頂きたい。

対策・妖気退散 硫化水素に対しては、排水溝への配管のトラップに百円均一ショップのスチールウールを入れておく。湿った、表面積の大きな鉄は硫化水素ガスを硫化鉄にして無害にしてくれる筈。尚、その場合のスチールウールは磁石に付く物の方が良いかと思いません。

* 数年前、私が自治会の役員だった時、何事に付いても一言有る人が「下水の側溝の悪臭が酷い」と言い出し、明日現場を確認に行こうという話になりましたが、その夜密かに私のグラインダー廻りの鉄屑や鉄粉を撒いておいたところ「臭いはもう消えた」という結論になり、目出度し目出度し。塩素ガス、塩化水素ガス、には重曹(=膨らし粉・ベーキングパウダー・酸性炭酸ナトリウム・重炭酸ナトリウム。これらの「ナトリウム」を「ソジウム」に換えても同じ。)を排水トラップの水に溶かす。

2. 昔に比べて生火の使用は少なくなった筈なのに、この所、練炭等の使用や火災での一酸化炭素中毒で命を落とす人のニュースを頻繁に目にします。原因に「生火の使用に不慣れ」「家の気密性が増した」等が上げられますが、もう一つ、昔ながらの紙張りの建具の面積が減ったこともあげられると思います。昔ながらの紙は高い一酸化炭素の吸着力が有り、一酸化炭素は300ppm / >hr以下では毒作用は認められない、いわば人体の防御の想定内(閾値内)です。それを越える分だけを吸着し、徐々に二酸化炭素に変えてくれれば問題無い道理です。ところが約一年前の年の暮れに、我が家で唯一の和室の2枚だけの障子を張り替えて驚いた！！これが障子紙か？？太鼓の革の様に破れ難く、やけに白く、水にも強く、昔の障子紙とは明らかに異質の物です。多分、紫外線吸収剤・蛍光剤・酸化防止剤・プラスチックサイジング、等で武装された、雨にも、日焼けにも、猫にも強く、どこかの美白化粧品会社のおばさん社長の様にいつまでも白いが一酸化炭素には無縁のものだったのでしょう。

対策・自己責任のみ。

3. 近年、犯罪・自殺・事故、で高層建築から墜落する事件・事故を数多く見聞きします。その中には「奇跡的に生還」がかなり有ります。奇跡は二度起らない。だが奇跡的は月に三度？？？「奇跡的にも重傷・軽傷・ほぼ無傷が有り」は落ちた先が重傷は車か駐輪場の屋根の上、「軽傷か、ほぼ無傷」は生垣の上が多い様です。

対策・方針ダミー(人形)等を使い、安全性の高い生垣の樹種・サイズ・配置・構造、等を徹底調査し、高層建築の周囲に建築計画の一部として盛り込む。

韓国開催、ラムサール会議の開催地の様子など

皆さんもご存知の方も多いと思いますが、昨年(2008 年 10 月 28 日～11 月 4 日)第 10 回ラムサール条約締約国会議が韓国で開催されました。

韓国駐在している私は開催のことをインターネットニュースで知りました。ただ、開催期間中に会場を訪問できず残念でした。開催までに関連情報をチェックしていれば良かったと後悔しました。既に参加なさった方からの情報もあってご存知と思いますが、開催期間中の韓国新聞ニュース、韓国のラムサール条約登録湿地情報などを読んでみましたので、自分の目で現地を見ていないので失礼とは思いますが、一部紹介します。

会場になった慶尚南道昌原市(キョンサンナムド、チャンウォンシ)は私の赴任地 慶尚北道亀尾市(キョンサンホクト、クミシ)から直線距離で 125km 位南にあります。開催地の周囲には、ラムサール条約登録湿地 牛浦湿地、渡り鳥の飛来地 注南貯水池があり、観光見学コースになっているようです。東亜日報(韓国一般新聞)の 10 月 29 日版の記事が詳しく、親切に報道されていましたので少し長いですが、開催地の様子が判りますので抜粋紹介します。

「ラムサール会議開幕、牛浦沼—注南貯水池の生態観光を 100 倍楽しむ」

第 10 回ラムサール条約締約国会議が慶尚南道昌原市で開催され、湿地に対する認識が高まっている。これにあわせて湿地の自然環境の「生態観光」を楽しむ人々も増えている。会議が開かれる昌原市の近隣にある牛浦(ウポ)沼と注南(チュナム)貯水池には、週末には数千人の観覧客が殺到している。特に、今回の会議の公式探訪地であるこれらの湿地に向かう無料シャトルバスは各地から出発しており、より簡単に生態観光を楽しむことができる。

● 最も古い自然湿地、牛浦沼

牛浦沼を訪れると湿地の規模に驚かされる。牛浦沼は慶尚南道昌寧郡(キョンサンナムド、チャンニョングン)の遊魚面(ユオミョン)他、4 地域にまたがる国内最大規模の自然湿地。牛浦、木浦(モクポ)、砂旨浦(サジポ)、チョクチポルの 4 つの沼からなる。全体面積が 8.54 平方 Km、淡水の面積だけで 2.31 平方 Km ある。サッカー競技場の 210 倍の規模だ。

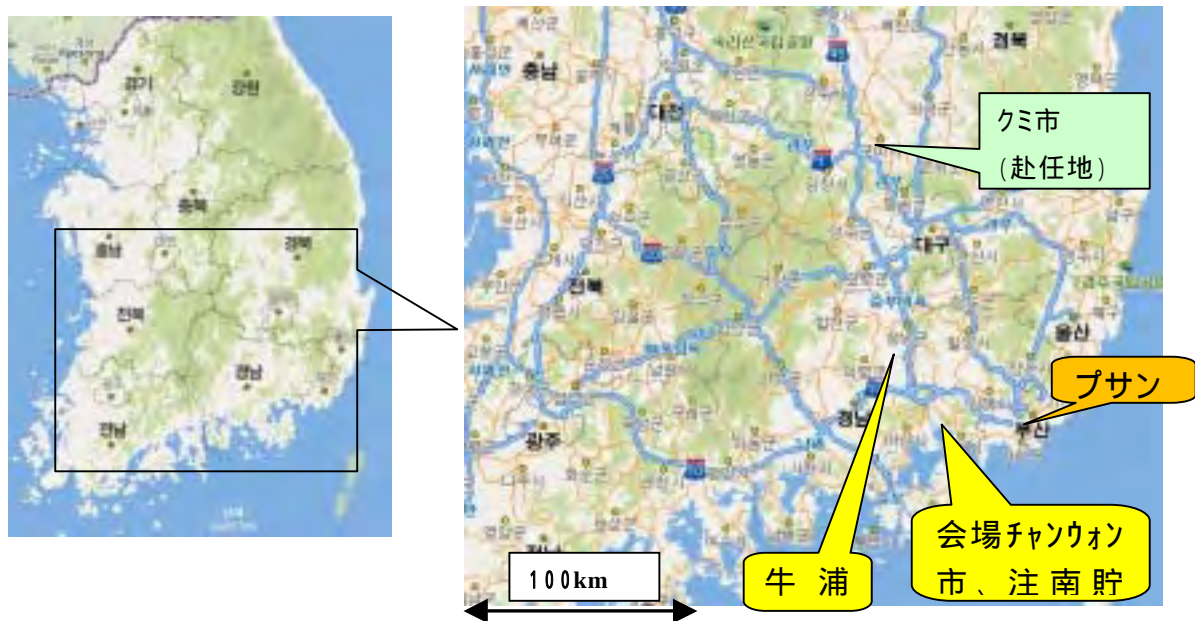
牛浦沼は国内でも最も古い沼として有名だ。周辺の堆積岩から発見された恐竜の足跡の化石などから約 1 億 4000 万年前に生成されたと推定されている。(中略)。牛浦沼は多彩な生物種と高い生命扶養力から、1998 年 3 月に韓国で 2 番目にラムサール湿地に登録された。ヘラサギやヤマネコ、オニバスの花などの絶滅危機にある野生動植物が発見され、ウキヤガラやタヌキモなどの植物 344 種やオオハクチョウやカルガモのような鳥類 76 種など多彩な動植物が生息している。(中略)。牛浦沼生態館のノ・ヨンホ館長は「観覧客は韓国にもこのような大きな自然湿地が保存されており、約 1000 種の様々な生物が生息しているという事実には驚く。牛浦沼は世界的に環境生態系の報告で注目されている場所だ。」と話した。(中略、期間中の生態観光ガイドやアクセス方法が PR されていた。)

● 渡り鳥の天国、注南貯水池

内陸最大規模の渡り鳥の渡来地。浮き草、マツモなどのえさが豊富なためだ。昨年も、ヘラサギ、オジロワシ、カリガネ、トビなど絶滅危機の野性動植物をはじめとする様々な渡り鳥が観察された。

注南貯水池を訪れる夏の渡り鳥は1日 5000～6000 羽程度だが、冬の渡り鳥は1日平均 1万～2万羽にのぼる。規模は5.97平方Kmで3つの貯水池からなる。ラムサール文化館 注南貯水池担当の朴ジェウク氏は「今年はヒシクイ、マガモなどの冬鳥が例年より早く訪れ 内陸湿地では見ることが難しいサギ類が確認された。頭の上を飛び回るシラサギやガン、そして今頃(11月)はトモエガモ2万羽の群舞を見ることができる点が魅力だ」と話した。(後略、期間中の生態観光ガイドやアクセス方法のPR)。以上東亜日報記事より。

以上のとおりで雰囲気わかります。インターネットでも多くのPRがなされていました。開催地の位置を下の図に示しました。機会を見つけて訪れてみたいと考えています。



赴任地のクミ市に 慶尚北道立公園で 金鳥山(クモサン)公園があります。ここは休日のウォーキングコースですが、金鳥山貯水池がります。内陸の人口池で周囲は約1.5km と小さいので冬鳥の飛来も少ないですが、それでも下に私が撮った写真を紹介しますが、マガモ、カルガモ、などが観察されました。今年は12月下旬から朝の気温が毎日マイナス5度前後で、1月11日に観察したら、池の70%位が氷結していて、鳥の数も少なかった。



‘08 年 1 月貯水



‘09 年 1 月氷結した貯水

フィールド・レポーター 2月～3月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
2月 7日(土) 10:00～14:00	定例会(14:00～セミナー)	博物館交流室
2月21日(土) 10:00～14:00	定例会(14:00～セミナー)	博物館交流室
3月 8日(日) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
3月28日(土) 13:30～17:00	定例会・掲示板発行	博物館交流室

(おこわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。今年も皆さんの身近な情報を楽しみに待っております。

昨年秋に結婚しまして、現在は「お多賀さん」で有名な多賀町に住んでおります。年末年始と大変雪と寒さがきびしく、初詣も一苦労でした。初詣の人出が毎年滋賀県内のトップ3に入るだけあり、多くの方々と賑わっていました。

最近になって知ったのですが、多賀はおそばが有名だそうです。秋に、家の近くにそばの花が咲いていて、なぜだろうとずっと思っていました。多賀大社近辺にもお蕎麦屋さんがあるので、是非食べてみてください。

今回は年末年始の食の調査についての原稿がありました。お正月の食文化ほど、地域・家ごとに差があるものも面白いと思います。家の他愛もない作業や食べ物が、実は少数派だった！なんて事が多々ありますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(担当 FRS金尾 佐紀子)



フィールドレポーター

掲示板

2008年度 第6号(3月) 通巻第54号



たのしみな 「琵琶湖博物館特別講演会」

昨年12月～3月の土曜日に、一般市民を対象に「新琵琶湖学入門セミナー」が開催され、館長をはじめ専門学芸員による講演が実施されました。

さすが総合博物館と思える多岐にわたる講演内容で、今まで未知の分野であった琵琶湖の持つ不思議や現在直面する問題点など、温暖化や環境問題とともに楽しく受講でき、博物館がこのようなイベントを実施されたことに驚きと感謝の気持ちをもった次第です。

さらに驚くのは次回講演会として、2009年4月から「琵琶湖博物館特別講演会」と題して、様々な分野で活躍されている研究者の方々の第一線の話をお聞かせしてもらえるという企画です。

4月18日(土)は「地震を知って震災に備える」

尾池和夫(京都大学名誉教授・前総長、国際高等研究所長)

5月16日(土)は「宗教の現代性」(仮称)

山折哲雄(国際日本文化研究センター名誉教授・元所長)

6月20日(土)は「琵琶湖生態系の原動力—植物プランクトンの世界—」

中西正己(京都大学・総合地球環境学研究所名誉教授)

などなど多彩な顔ぶれは川那部館長の人脈の深さを窺い知るところです。

このような教授方の話を直接聞く機会には、今後めぐり会うことが出来るかどうか、大いにたのしみにしています。

***** もくじ *****

1	: たのしみな「琵琶湖博物館特別講演」	多胡	好武
2	: 学芸員紹介「楊 平さん」	多胡	好武
5	: お雑煮は 白味噌に丸餅	津田	國史
8	: 「タンポポ調査・西日本2010」にご協力を	FRS	
11	: 正月の食べ物	山崎	千晶
12	: 正月は 美味しいもので	津田	國史
15	: 編集後記	山崎	千晶

学芸員紹介シリーズ 第21回

大津市 多胡 好武

YANG Ping
楊 平 (よう へい) さん <環境社会学>



今回は「新琵琶湖学入門セミナー」の最終回(3/7)「中国・太湖の水辺利用」で取りを務められた楊学芸員を紹介いたします。
出身地 中国 遼寧省

問1．中国での勉強、日本に来たきっかけは？

子供のときから、日本のアニメなどで親しみがありました。それに、日本にきたのは、大学で日本語の勉強をして、その国の文化なども含めて、もっと知りたいと思い、日本に来ました。

問2．環境社会学との出会いは？

日本の大学るとき、主に「環境」問題を中心に授業を受け、人文学部経済学科に所属していました。その時環境について学んだのが出会いです。
人々の暮らしや生活の中から、環境を考えていこう。と社会科学の側面から環境問題を考えることも、必要ではないかと思いました。

日本での略歴

高知大学大学院人文社会科学研究科修了

筑波大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程修了

2007年9月より滋賀県立琵琶湖博物館勤務～今日に至る

問3．現在研究していることは？

、中国・太湖を中心にフィールドしており、人と自然とのかかわりについて調査研究しています。《「家船(えぶね)」生活者や、生活者の視点から》

「家船(えぶね)」とは

太湖(琵琶湖の3倍の面積)には古くから太湖と暮らす「家船生活者」たちにより、独特の文化が育まれている。「家船」とは字のごとく、生活の中心である家が船にあり、飲み水だけでなく、生業も太湖に依存した漁業を営んでいる。

「家船」が太湖の岸辺に数艘かたまって停泊し、船だまりをつくっている様は、唐宋時代から湖の暮らしが風景として多く詠まれてきた場所でもあります。(無錫市近郊)



《船だまりの「家船」と漁をする小型漁船》



《無錫市南泉の川の風景》

、太湖の水郷地帯の水利用に「マトウ」があげられます。

「マトウ」は川べりに作られた人工の洗い場で、近隣の家数件がメンバーをつくり、メンバーの合意によりマトウの場所、その権利、管理などが決められる。水の豊かな太湖のほとりの町、無錫市南泉では「マトウ」と共に川の「流水」や川に架かる「小橋」が水郷地帯の景観となっています。



《高島市新旭のカバタ》



《川べりに作られた「マトウ」》

、琵琶湖では集水域における水や水辺の利用形態（高島市新旭町）について「カバタ」が利用されています。「カバタ」は台所に湧き水引き込んで、仕切りを作りきれいな水は飲料、料理用、その次野菜など洗い、そこから溢れた水は鍋や皿洗い物用。その後、各家から出た水は、水路を通して琵琶湖に流れるって仕組みです。食器洗などの部分では鯉などを飼っていて、残飯は魚の餌になっている。「マトウ」は数件の家で共同利用しますが、「カバタ」は戸々の家で管理使用されています。

問4．今後研究したいこと？将来の夢などあれば！

- ・ 水や水辺利用の実態を、水道が発達した現在どのように残されているか。各地に残され、今も利用されている水文化を尋ね、それらがいかに環境に配

慮されたシステムかなど調査研究する予定です。

- ・ 太湖と琵琶湖を比較して、特に環境面から琵琶湖の環境改善のノウハウを参考に、湖の環境問題改善の手助けができたと思います。

問5. 主に日課として心がけていることがあれば！

- ・ 何事にも、物事を前向きに考えるよう心掛けています。
- ・ できるだけ毎日文章を書くように心掛けています。

問6. 趣味と休日はどのようにお過ごしですか？

テニス、スポーツジムでのダンス、音楽など

問7. 将来は中国に帰って仕事をされるのですか？

学んだことを活かせるのであれば何処へでも・・・

～中国のご両親は？ とチョッピリ心配な親心の筆者～

問8. フィルドレポーター担当としてメッセージを一言・・・

フィルドレポーターの皆さんには学ぶところが多くて、地域の文化、風習など多くのことをいろいろ教えていただきたいと思っています。「みなさんから、学びたい」・・・という気持ちで交流室に足をはこびます。これからもよろしくお願い致します。



《自室、研究室を拝見》

取材後記

日本では「うまい水」、中国では「あまい水」という表現があるようですが、水は私たちの生活に欠かせないものです。豊かで、安心して飲める水が求め続けられています。近年私たちの琵琶湖も中国の太湖もその生態系を含む環境は大きく変わりつつあるようですね。

楊学芸員は国内外の様々な湖、水辺で暮らす人々の様子や自然、環境の変化を琵琶湖の現状と重ね合わせて情報発信し、その環境対策の一翼を担うことを研究されているのです。

今後とも水辺環境の保全で、うまい・あまい水が飲めるよう研究を続けてください。またフィルドレポーター担当としてお世話になっていますが、我々に出来ることがあれば遠慮なく言ってください。お手伝い致します。

本日は多忙なときに時間をいただき、また写真提供を有難うございました。

今回の調査〔年末年始の食調査〕でもやはり、白味噌仕立てに丸餅の家庭が多いとの結果がでました。

ここでは、お雑煮について見えてきた事柄をお報せします。
お雑煮の具材ベスト 10 は、お雑煮項目への回答数 144 件、(食べない 5 件を除外) のなかで、丸餅 62・白味噌汁 59・大根 58・人参 57・里芋 50 件と続き、すまし汁 40・かまぼこ 25・かつお 23・ほうれん草 15・角もち 13 件の順となりました。

10 年前のわたし達フィールドレポーターの「お雑煮調査」でも丸餅と白味噌汁の組み合わせが多いと出ていましたが、今回の調査でもこの組み合わせは維持されていることがはっきりしました。

じつは「もち」とだけしか記入されてない方が多くあり、この方々の分は丸餅、角餅どちらにも分類されていません。お雑煮を食べましたと報告のあった 139 名の方は、ほぼ確実に御餅を入れておられると思いますので、もし比例配分すれば丸餅の件数はもっと多くなるはずです。

すまし汁が意外に少ないのは滋賀という地域との関係があるのでしょうか。

報告の中で、日替わりで献立を変えて、今日は白味噌汁、明日はすまし汁と家族の好みを酌んだ献立をしておられる家庭がみられました。祖父母から夫婦へと、お雑煮の嗜好の違いをそのまま継がれた食習慣は、この正月の年中行事を介して子供に受け継がれていくと、子の世代ではどのような形で現われてくるのか気になります。その一つが日替わり献立という形になって、うまく家族の嗜好に応じておられるのかもしれない。

中にはあまり食欲を示さない子供に、これは縁起のものだからと、強制的に食べさせましたとの報告もありました。子供には迷惑なお正月だったかもしれませんが、家庭の食習慣の維持にはこれも必要かとの思いがしました。

最初に挙げたお雑煮の具材の 10 品を見てもみますと

丸餅・角餅

お雑煮に入っている餅の 44% が丸餅であることがわかりました。
角餅はわずか 9% と大きく差が開いています。白味噌汁だから丸餅で、すまし汁だから角餅といった、汁と餅との相性があるのかどうかをみますと、特に際立ったものは見られませんでした。

すまし汁に丸餅は 11 件ありますが、白味噌汁に角餅は 2 件でした。1 件だけ丸トチ餅を白味噌汁でという報告もありました。

すまし汁に焼いた餅というのもありました。焼く、焼かないは設問にありませんので、このすまし汁に入った焼き餅の形はどちらであったか気にかかります。

1 件、丸餅(焼かない) と丁寧な説明がありましたし、切り餅を焼いて白味噌汁に入れるとの報告もありました。

別項でも触れましたが、お雑煮の餅の形について記入がなく、単に餅と記入された

報告が多くありました。ですので、その餅の形がどちらであったかは判りません。お雑煮を食べましたと報告のあった方 94%の殆ど(凡てと思います)がお餅を食べて居られるはずですので、お餅とだけしか記入のなかった分を、丸餅と角餅に比例配分しますと、やはり丸餅がより多くなることは確かです。
お雑煮の餅に的を絞った調査も面白いかなと思いました。

白味噌汁・すまし汁

42%が白味噌汁であるのが今回調査しましたお雑煮の特徴です。
それに対して、すまし汁は 28% ですから今回の調査ではやはり少なかったといえるかもしれません。
鹿深味噌といわれる地域の味噌を使って居られる方の報告は、田舎味噌と強調されていました。すまし汁では、丁寧にお出汁をとってすまし汁を作っておられるのがわかりました。代々続く味付けとの報告もあり、わが家の味を継承されているのもすまし汁ならではでしょうか。? と思ったのは白味噌汁にハマグリとあるのを見たときです。ハマグリならすまし汁がお似合いなのにと見え、何度もこの方の報告を読み直していました。

大根・人参

この二品は対になってお雑煮の具材としてなくてはならないようです。
白と紅、色目もめでたいので多くの家庭でお雑煮を彩っているようです。
そして興味深いのは、人参は和人参(金時人参)とのこだわりが多かったことです。普段は洋人参を食材として多用しておられる家庭でも、お正月の食材(おせち、お雑煮)には鮮やかな金時人参を選ばれる感覚に、お正月料理の粋なけじめを見せられた思いでした。

里 芋

芋の項目には、親芋、小芋の表記も全て里芋に分類しました。
もちろん頭芋も里芋の項目に入っています。
大きな頭芋がどっかりとお雑煮のお椀の中に鎮座している図は、お雑煮具材の圧巻ともいえるでしょう。親頭がないので小芋にしましたと、次世代に引き継がせて芋系統の維持に努めておられる報告もありました。

かまぼこ

意外に多いなとの思いがしますが、おせちにも使うのでお雑煮にも使われるのでしょうか。
魚介や鶏肉を具材としておられる家庭もあり、おせちほどではありませんが、練り製品・加工品も扱い易さから重宝されているのかなと思いました。

か つ お

花かつおは具材に振り掛けて食べるのでしょうか、すまし汁では汁の中では沈んだ状態でしょうか。パックのかつおを掛けるとの報告があり、かつおの中身は様々なようでした。かつお削りで削ってというのは見当たらず、少し淋しい思いもしました。

ほうれん草

三つ葉が多いかなと予想していましたが、すまし汁でしたら三つ葉の出番でしょうが、白味噌汁ですとほうれん草となるのでしょうか？

彩りとしてはほうれん草のほうに分がありますが、香りでは三つ葉でしょう。数本の結び三つ葉がすまし汁に浮かんでいるのも和の雰囲気を楽しめていいものだと思います。

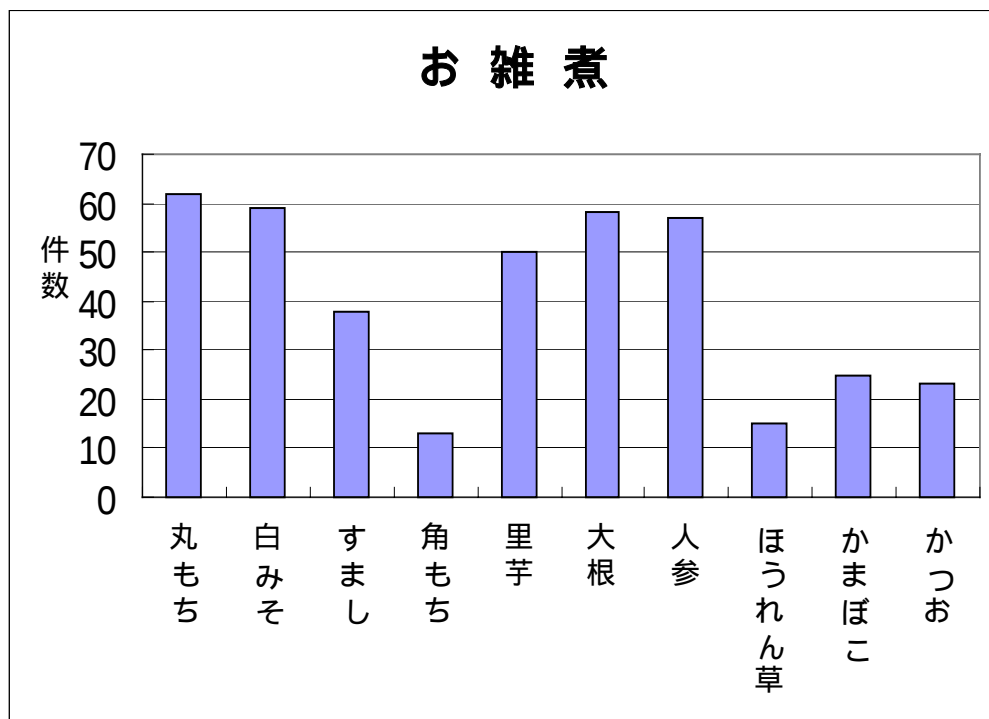
上記以外でお雑煮の具材として報告のあったもの、

スルメ・ブリ・シイタケ・もち菜・焼豆腐・イクラ・焼アナゴ・梅やき・柚子皮・カブラ・油あげ・エビ・シメジ・ネギ・春菊・水菜・牛肉・玉子・金時豆・小松菜・とりササ身・玉ねぎ・なると巻・とろろこぶ・エノキタケ・ブロッコリー・はくさい・セリ・塩焼鮭・タラ。 と多種多様でした。

1件とてもシンプルな報告がありました。

「丸モチ・みそ仕立て・具なし・花かつおをかけて食べる。」という報告です。新聞の正月の味特集にこれと同じ献立の投稿があったのを思い出していました。嫁いで始めて出合ったこのお雑煮に驚いたが、いまでは作り方も簡単、材料もわずか、それでいて飽きが来ないと礼賛しておられたのを覚えています。

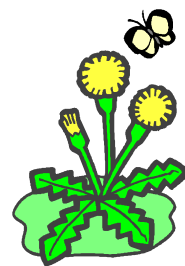
お雑煮もそれを作られる家庭の数だけ、それぞれな献立がありそれが継承されて今日になっているのだと思いました。



お雑煮の具材ベストテン

「タンポポ調査・西日本 2010」に ご協力お願いします

ツクシ、タンポポ、ツバメ、そして桜、
きらめく日差しの下で、春がひろがっています。
春を探しに外に出てみませんか！



フィールドレポーターではお馴染みのタンポポ調査ですが、カンサイタンポポが生息する西日本全域を対象に、「タンポポ調査・西日本 2010」が行なわれることになりました。今春はその予備調査が実施されます。

自然の豊かな滋賀県において、在来種のカンサイタンポポはどこに咲いているでしょうか。外来種の分布は増えているのでしょうか。また、カンサイタンポポと外来種の交雑で出来た雑種タンポポがあることがわかってきましたが、どんな状況にあるのでしょうか。

春の自然を楽しみながら、タンポポ調査にご参加ください。

まずは探しに出かけよう

タンポポは、街でも住宅地でも見ることができます。調査に当たっては、珍しいものを頑張って探すよりも、ごく自然に目についたものを記録してもらえるとありがたいです。今回は調査域が西日本ですので、福井県、滋賀県、三重県以西で採取されたものなら、この調査票を使用してご報告ください。

なお、たくさんの地点を調べられた方は調査票をコピーされるか、下記のホームページから用紙をダウンロードしてください。また、郵送の際は調査票を封筒として使用せず、全部をまとめて大きな封筒に入れて送ってください。

♪ 興味があれば

外来種の姿をしたタンポポの中には、花粉がほとんどないものがあります。花の中央にセロテープを当てて、花粉が付くか調べてみましょう。
花粉がないのは雑種です。

詳しいことを知りたい人は

フィールドレポーター掲示板(2008 年度 1 月号)に、調査実行委員会代表をされている布谷知夫さんが調査目的等を書かれています。「タンポポ調査・西日本 2010」のホームページ <http://www.nature.or.jp/Tampopo2010/Tampopo-index.html> には、「タンポポ調査・近畿 2005」の調査結果や、雑種に関する記述もありますのでご覧下さい。

調査期間は 5 月 31 日までです。

フィールドレポーター・スタッフ

緯度・経度 3次メッシュコード変換ツール

表計算ソフトエクセルを使って、調査地点の緯度、経度からその地点の3次メッシュコードを調べる手法を紹介いたします。

森 擴之

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											

H 列から J 列の 6 行目以降に下に記す数式を入力して下さい。

H 列（6 行以降）の数式：

=IF(B6<>"",B6+(C6/60)+D6/3600,"")

I 列（6 行以降）の数式：

=IF(E6<>"",E6+(F6/60)+G6/3600,"")

J 列（6 行以降）の数式：

=IF(H6<>"", (INT(H6*60/40))*1000000+(INT(I6-100))*10000+(INT((MOD(H6*60,40))/5))*1000+(INT(((I6-100)-INT((I6-100))*60/7.5))*100+(INT((MOD((MOD(H6*60,40)),5))*60/30))*10+(INT((MOD(((I6-100)-INT(I6-100))*60,7.5))*60/45)), "")

使い方：

緯度及び経度をそれぞれ「度・分・秒」表示欄に入力すると、「度」表示欄及び「メッシュコード」欄が、自動的に表示されます。

上の表は、琵琶湖博物館の緯度、経度を「度・分・秒」表示で入力した例です。

緯度、経度が「度」表示しか分からない場合は、「度」表示欄（H 列、I 列）に直接入力すると、メッシュコードが計算されて、表示されます。

* うまく出来ないときは、E-メールアドレス walditmh@ybb.ne.jp までご連絡下さい。

インターネットによる調査地点の特定法について

～タンポポ調査・西日本2010予備調査に当たり～

フィールドレポーター・スタッフ

下記 URL にアクセスすると、Geocode Viewer 画面が開きます。

<http://www.geosense.co.jp/map/tool/geoconverter.php?cmd=meshcode>

Geocode Viewer

各種のジオコードを表示します。表示項目: 地域メッシュコード

赤の十字: 緯度 経度 表示

地図の拡大

表示方法の選択

住所検索

地域メッシュコード

1次メッシュコード		表示
2次メッシュコード		表示
3次メッシュコード		表示
1/2メッシュコード		表示
1/4メッシュコード		表示
1/8メッシュコード		表示
5倍メッシュコード		表示
2倍メッシュコード		表示

・別名
3次メッシュ: 基準地域メッシュ, 1kmメッシュ, 標準メッシュ
1/2メッシュ: 4次メッシュ, 500mメッシュ
1/4メッシュ: 5次メッシュ, 250mメッシュ
1/8メッシュ: 6次メッシュ, 125mメッシュ

・地図上の点のメッシュコードを表示する場合
地点をクリックして下さい。

・メッシュコードの区域を地図上に表示する場合
メッシュコードを指定して表示ボタンを押して下さい。ハイブ

例として、地図部分を拡大表示した後、地図部分をドラッグして、鳥丸半島を表示させ、地図上の博物館をクリックした時の画面を下に示します。1次メッシュコード範囲が赤線で囲まれ、地図上部に緯度、経度が表示され、右側にメッシュコードが表示されます。

各種のジオコードを表示します。表示項目: 地域メッシュコード

赤の十字: 緯度 経度 表示

1次メッシュコード: 8286 表示

2次メッシュコード: 8286-47 表示

3次メッシュコード: 8286-4794 表示

1/2メッシュコード: 8286-4794-4 表示

1/4メッシュコード: 8286-4794-4-4 表示

1/8メッシュコード: 8286-4794-4-4-2 表示

5倍メッシュコード: 8286-473 表示

2倍メッシュコード: 8286-4794-8 表示

・別名
3次メッシュ: 基準地域メッシュ, 1kmメッシュ, 標準メッシュ
1/2メッシュ: 4次メッシュ, 500mメッシュ
1/4メッシュ: 5次メッシュ, 250mメッシュ
1/8メッシュ: 6次メッシュ, 125mメッシュ

・地図上の点のメッシュコードを表示する場合
地点をクリックして下さい。

・メッシュコードの区域を地図上に表示する場合

タンポポ調査或いは今後のフィールドレポーター調査に際して、インターネットにアクセス出来る環境をお持ちの方は是非ご利用下さい。
なお、メッシュコードは「世界測地系」を選択して下さい。

正月の食べ物

FRS 山崎 千晶

お屠蘇 西日本では「公家」の風習で、酒に屠蘇（漢方）と味醂や砂糖を加えたものが主流でした。東日本では、お神酒を屠蘇と認識して日本酒が多く、最近はアルコールなら良しとの傾向もあり、ワインや焼酎なども屠蘇とみられるようになりました。

年取りの行事 屠蘇と共に頂くのは、悪いことスルメ？・勝ち栗・結び喜び昆布、みかん・干柿・カリカリ小梅・生米か鏡餅を削ったものを年長者から年少者へ分けてもらいました。

おせち 神様にささげる食事として準備されたもので、本来、節会は正月だけではないのですが、年の初めなので特に大切にされたようです。戦後に百貨店でもお重を販売するようになり、家族の好みに合わせて、洋風や中華風も現れています、最近では一家団欒に鍋も流行りの様子です。

年長者から聞いた話では、正月からお金を出さないためと、家人が料理で忙しい思いをしないためもあったようで、昔は商店も休みが多かったので、食材の調理、保存を考えた生活の知恵がおせちを生み出したらしいです。

年末は忙しくても、正月はのんびりできるのが嬉しく、毎年食べて寝て太っています。子供の頃はあまり好きではなかった「おせち」も、正月気分を盛り上げるのに必要な品々になりました。数の子は子孫繁栄・田づくりは豊作・黒豆はマメに働く・クワイは芽が出る・海老の甘煮は腰が曲がるまで長寿を願う・鰯は出世魚・酢レンコンは見通しが良いと聞かされて食べていました。



煮しめ

ニンジン・レンコン・鶏肉・キヌサヤ・ゴボウ・タケノコ・干しシイタケ

重詰め

りゅうひ巻・伊達巻・蒲鉾・海老・だし巻・高野豆腐・フキ・鰯・クワイ・田づくり・鯛の子・きんとん

正月は 美味しいものを

F R S 津田國史

フィールドレポートの08年度第2回調査「年末年始の食調査」には147件の報告が寄せられました。

この半数以上の63%がフィールドレポーター以外の方々からの報告であり、この種のアンケートではきわめて異例のことと受け止めています。別の見方をすれば、多くの県民の皆さんに支えられた調査であり報告でありました。

フィールドレポーターの皆さんでも、お名前を記入されていない方がありますので、本当はもう少し多いのかもわかりませんが、記録に現われたかぎりでは、フィールドレポーターからの報告は36%でした。

滋賀県内の情報は91%で、滋賀以外での正月の食情報は6%でした。

今日のこの報告は居住区の定かでないもの（地域無記入）他県のものも含めて、今回の報告で頂いた総てを採録したものからみた結果をお報せしています。後日提出の報告は他県、住所不記などを除き、滋賀県内の報告だけをまとめたものになる予定ですのでご了承ください。

報告いただいた年代は10代から80代までと幅広く、年代別では60代49名・50代32名・40代24名・70代16名・30代10名・20代6名・80代4名・10代3名の順です。

設問の7項目と食材を眺めてみますと、

1. 年越しそば

ほとんどの家庭90%で食べられていて、今回の調査7項目のなかでもっとも多い数値でした。

信州から取り寄せた・主人が打ってそれを一家で賞味している・どんべえの天ぷらそば、などもあり年越しそばは、調査対象の家庭では大晦日の食文化として定着しています。

具材のネギ、エビ天、ニシンは定番ですが、アブラゲ、カマボコも多く使われています。うどんでも年越しそばに代えておられる報告もありました。

どんべえが登場したのには、そうか！そんな術があったのかと興味を覚えました。具材、慣習にこだわらない自分流でフレキシブルに年越しそばを賞味して大晦日を過ごされている様子が見えて、なにかそれらしいものを望まれる姿勢が楽しかったです。

2. お 屠 蘇

飲む、飲まないが拮抗しています。

じつは、お屠蘇の内容を厳密に規定していませんでしたので迷われた方もあったのではと思います。

日本酒もお屠蘇であり、正月に祝う酒類すなわちお屠蘇との考えで、昔ながらの屠蘇

散の入ったものに限定はしていませんでした。

多くは屠蘇散の入らない日本酒であったり・ワイン・泡盛・自家製アロエといったものもお屠蘇として、新年を寿ぐ飲み物にしておられる報告でした。

それでも先の年越しソバと比較して、報告者の半分余りしかお屠蘇（日本酒など）を飲んでおられないのがこのお屠蘇項目の特徴です。

3. お せ ち

お雑煮と同様に食べないと報告のあったのは少数でした。

正月の家庭でおせちは、献立の変化を取り込み、少しずつ各家庭の嗜好に馴染みながら強く支持されていることを改めて知らされました。

好みに応じて取り易く、無駄にならずに食べ易いアラカルト様式、昔からの具材にこだわらず、好みの具材をどんどん取り入れて我が家のおせちを創り上げておられる様子がうかがえました。

おせちを食べられた方の多く 81%が自宅だと答えられ、自宅でも食べたその方が、自宅以外でも食べたとの報告がちらほら見られ、訪問先などでおせちを饗された様子がうかがえます。お雑煮ではこの現象が全くみられなかったのは、おせち料理のもつ特徴でしょうか。

具材の黒豆はおせち料理の中でもっとも多い食材であり 67%の家庭で食べられていて、ついで数の子が 53%でした。ゴマメは 38%で案外少なく、調理に手間のかかる棒ダラが 29%と健闘していたのは、昔ながらのおせち料理の食材にこだわっておられる現われでしょうか。

にらみ鯛をかなり前からおせちに入れなくなったとの報告があり、全く廃れてしまった食文化かなと淋しくなったのですが、いまもにらみ鯛を家族で凝視しておられる報告が一件あり、ほっとしました。

フナズシというのもあって、近江ならではとの思いもしました。また主人が年末に釣ってきた鯛・アジ・クエを調理というのもあり、他に出身地和歌山のクエをおせちに挙げて賞賛されている報告もありました。

意外だったのは、おせちの全てを買ったとの報告が少く、おせちの具材を買って自宅で調理されている家庭の多いことでした。

用紙の裏面一杯を使っておせちその他のレシピを細々と知らせてくださった方、おせちへの思いを述べられた方など、おせちへのこだわりを感じました。

4. お 雑 煮

おせち以上に自宅で食べたとの報告が多く 88%ありました。

お雑煮という食材に馴染めない方、食べない方が増えているのではと予想していましたが、おせち同様こちらもお食べないという報告は僅か 5 件でしたのが印象的でした。そのうちお雑煮も、おせちも食べていないとの報告が 2 件ありました。

御餅は丸餅と角餅のどちらか記入されていないものが多く、単に「もち」とだけの記入が意外に多くありました。丸餅と明記していただいた割合から類推しますと、圧倒的に丸餅が多いことがうかがえます。

これは、10 年前のわたし達のお雑煮調査の時でも、丸餅が多く使われていてその状態がそのまま維持されているとみていいでしょう。

すまし汁に角餅の組み合わせと、すまし汁に丸餅の組み合わせのどちらが多いか興味がありました。丸餅と角餅はほぼ互角でした。汁と餅の形には関連がなさそうです。

日替わりで今日は白味噌汁に丸餅、明日はすまし汁に角餅と献立を変えて、家人の食歴、嗜好に合わせておられるのがお雑煮の特徴でした。中には京風・瀬戸内風・関東風と三ヶ日の献立をきっちり分けて、家人それぞれの嗜好、食味を満しておられる正月の嬉しい祝膳風景も見られました。

5. 鏡餅

92%の方が鏡餅を飾っておられます。

その内には自宅で搗かれた方、親戚・知人の所などで搗いたのを飾っておられる方も13%ありました。自作の糯米を近所の餅屋で加工してもらったとの報告もありました。喪中のため飾らなかった方も数名。

「お鏡」と言われ、日本人にとって「門松」とともにこの二品は正月を象徴するものとしていつの時代も変わらずに続くものであるようです。

6. 鏡開き

その日はいつか？家庭ごとに決まった日があるようでないようです。

特に何日との報告があったのは7日・11日という2件だけでした。カビが付かないうちにと極めて明快な報告や、切り易いうちにとという報告も見られ、「鏡開き」と特定した日を見つけるのは難しいようです。

15日の小豆粥に入れるとの報告もありました。水餅にして春先まで正月の餅をうまく賞味しておられる方もあり、味噌汁に入れたり、シチューに入れてと食べ方も多様な報告でした。

開いたお餅は「ぜんざい」という食べ方が62%と多いです。意外にカキモチに加工が少ないと思うのは、昔から続いていた田舎のオヤツの風習を知っているからでしょうか。

小正月に神社で燃やす左義長の火で餅を焼いて食べるのが正月の餅の賞味期限であった風習ももう期限切れのようです。

7. 七草粥

食べないとの報告が一番多く45%あった項目でした。

それでも54%の方が七草粥を食べておられます。やはり七草を買ったという方が多く、食べましたと報告された中の64%の方が買って食べておられました。摘んで食べた方は自家菜園の中の野菜とか、春の七草にこだわらず適当な野菜(三つ葉・カブ・菊菜)をとというのがその七草粥の特徴でした。

中にはきちんとセリ・ナズナ...と昔ながらの春の七草を守っておられる方もありましたが、七草の粥を祝う風習は残っても、入れる菜の全てを揃えるのは難しいことがわかります。

みなさんからの報告を読みながら、その食材の多様さに感心していました。そしてその食感、味覚に思いを馳せ、みなさんがそれぞれ正月に賞味されたものを総て食べてみたいとの思いを募らせていました。

フィールド・レポーター 4月～5月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
4月11日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
4月25日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
5月 9日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
5月23日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

《フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて》

暖冬とはいえ、『比良の八講』も終わり、春本番を間近にひかえフィールド調査の季節を迎えました。

最近タンポポがややこしくなっているようです、今年の『タンポポ調査』は西日本一帯で行われます。フィールドレポーターでも協力することにしましたので、多くの皆様のご協力をお願いします。

現在、『年末年始の食調査』を集計中です。出来次第お届けいたします、今しばらくお待ちください。

5月下旬にはフィールドレポーター交流会を行う予定ですので、皆様のお越しをお待ちしております。詳細日程が決まり次第お知らせいたします。

(担当 F R S 山崎 千晶)

